

ORIENTEERING JAPAN

'93/4

# O JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

1993年〔平成5年〕4月10日発行

(毎月1回10日発行)

第10巻第4号通巻第117号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



# 安来清水寺

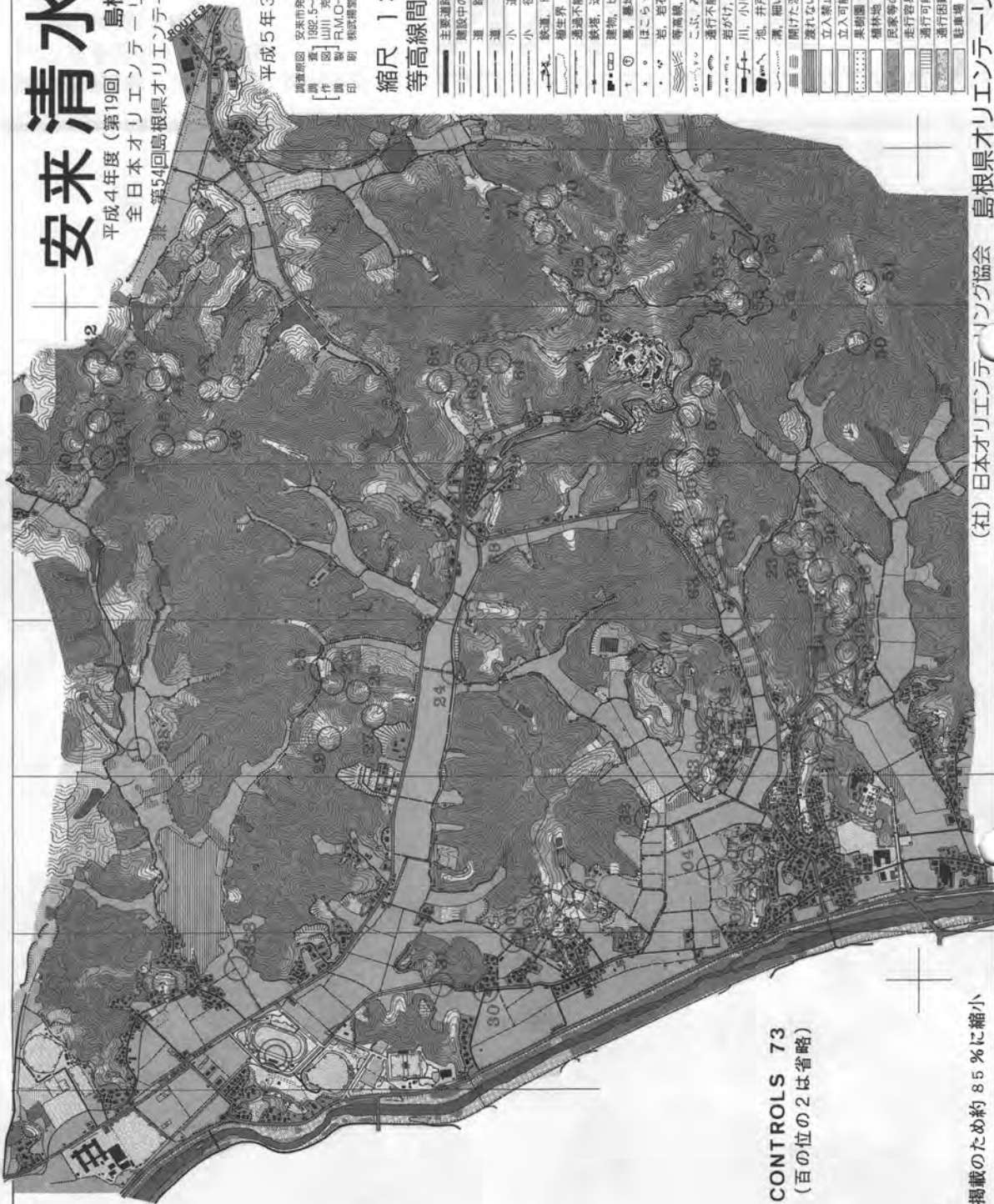
平成4年度(第19回) 島根県安来市  
全日本オリエンテーリング大会  
第54回島根県オリエンテーリング大会

平成5年3月21日(日)

調査原図 93系市倉庫2.5千分の1地形図  
 図番 1089.5-1089.3  
 図名 山川 安来町  
 製作 製図 R.M.O.サービス  
 印刷 印刷 印刷

縮尺 1:15,000  
 等高線間隔 5m

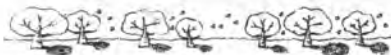
- 主要道路
- 建設中の道路
- 道 路
- 道
- 小道
- 小 径
- 鉄道、トンネル
- 境界
- 通過不能の欄
- 送電線
- ・□ 建物、ビニールハウス
- 墓、墓地
- × ぼこら、記念碑、鉄塔基跡
- 岩、岩石地
- 等高線、まげつ
- 谷、みぞ、穴、小凹地
- 通行不能のがけ
- 若がけ、土がけ
- 川、小川、橋、せき
- 池、井戸、湧水点
- 溝、細い湿地
- 開けた湿地、草地
- 浸れない湿地
- 立入禁止の開けた土地
- 立入可能な開けた土地
- 果樹園・茶畑
- 植林地・荒地・牧草地
- 民家等の敷地
- 走行容易
- 通行可能
- 通行困難
- 駐車場



ALL CONTROLS 73  
 (百の位の2は省略)

本誌へ掲載のため約85%に縮小

(社)日本オリエンテーリング協会 島根県オリエンテーリング協会



<写真・全日本大会  
H・D21Eクラスの表彰  
撮影/桐田 幸宏>

- = インカレ92 = 桐田 幸宏, 岩出 雅人
  - 「個人戦男子 ~鹿島田有終の美~」 ..... 4
  - 「個人戦女子 ~奥山陽子・快走~」 ..... 5-6
  - 「団体戦男子 ~東大リレー初の2連覇」 ..... 6-9
  - 「団体戦女子 ~広島大初優勝~」 ..... 9-13
- = 日本学連より =
  - 平成5年度日本学生オリエンテーリング連盟  
幹事長・佐々木 順 ..... 14
- = SQUAD =
  - WOC93予備セレクション最終結果 稲葉 英雄 ..... 15
- = 投稿 =
  - 第1回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会  
山岸 倫也 ..... 16
- = イベント・レポート =
  - 「山口県OL大会」 福田 良雄, 財間 定義 ..... 17
  - 「インカレ併設一般大会・  
土山オリエンテーリング2日間大会」 岡本 忠佳 ..... 17
  - = 特別寄稿 =
    - 「黒木まどかの旅行記(島根県篇)」 黒木まどか... 18-19
- = 都道府県協会より = = 連絡協だより = ..... 20

[今月の表紙] インカレ団体戦女子優勝/広島大アンカー・石黒選手  
撮影/桐田 幸宏  
[今月の地図] =P2= 平成4年度全日本大会使用地図  
作図/山川 克則

- 平成4年度(第19回)全日本オリエンテーリング大会は、去る3月21日(日)、島根県安来市で開催され、無事終了した。
- 選手権クラスでは、H21E・村越 真選手(静岡OLC)が、初の全日本対決となった若き強豪鹿島田選手を下し、このクラス14連勝の偉業をなし遂げた。2位・鹿島田浩二(東大OLK), 3位・菅原 琢(多摩OL)の順であった。D21Eは、昨年に続き木植早生(茨城中小教員)が、2位・宮本知江子(京葉OLC) 3位・福土淑子(千葉大OLC)を抑えた。
- なお、ジュニア・エリート19-20Eクラスでは、男子・入江 崇(東北大OLC), 女子・千葉あかね(千葉大OLC)が、それぞれ優勝した。

## 天の声・地の声・人の声

### 1. 天の声

トイレの手洗いにチュウインガムを捨てたのは誰だ!

さる平成5年3月20日(春分の日)中九四学連主催リレーオリエンテーリング大会の会場、男子トイレで時刻はウムスタートより少し前のことである。

男子トイレの手洗いにチュウインガムが吐き捨ててあり、正にそれが詰まりかけていた。

それまでは、そこにチュウインガムはすてられていなかった。

そこで思った事は  
ガムを捨てる方法も知らない人は、チュウインガムを食べるなよ---

### 2. 地の声

同じく、中九四学連リレーの日、ジュースの自動販売機そばのごみ箱が、

ストリーマー  
オリエンティアの捨てたごみがあふれていた---

あとで主催者がかたづけなければならぬ。みんなが持ちかえればよいのに---

ごみは持ち帰ろうよ---。捨てたオリエンティアたちよ。

気品あるオリエンティアになろうよ。

### 3. 人の声

同じ日、最後のころに帰途につくと、あるはあるはスタンドにごみが---

誰がかたづけると思って捨てたのか---。いや、わすれたのか---

次回からは、忘れないように、持ち帰ろう---。な。気品あるオリエンティア諸君たちよ、せめて自分が更衣した

付近は綺麗にして帰ろうよ---

平成の大久ひご笑紋

# インカレ92

桐田 幸宏  
岩出 雅人

平成5年3月12日～14日、第15回日本学生オリエンテーリング選手権大会が、滋賀県土山町（大津市・志賀町）において開催された。個人戦は、シード選手の鹿島田浩二と奥山陽子が制し、団体戦は男子が東京大学の二連覇、女子が広島大学の初優勝となった。

## 個人戦男子 ～鹿島田有終のV～

個人戦男子は、鹿島田浩二（東大4）が本命。例年に比べると対抗馬のレベルが落ちたような気もされたが、それでも小長井信宏（京大4）が、中間タイムで鹿島田を上まわる快走。また、東北大のエース・入江崇が2年生とは思えない好成績を残し、実力的にも例年にひけをとらないハイレベルなレースとなった。

個人戦前夜、コースプランナー達が語る。

「例年と比べて本格的。マップの完成度も高いし、完成度の高いコース。鹿島田が80分を切っても6位は90分になるだろう。小長井が鹿島田に追いつかれても1・2フィニッシュはあり得る。」（コースプランナー・笹田啓一郎）

「⑨～⑬の後半勝負。⑬以降は気合とトレーニング量でしょう。」（同プランナー・樋口一志）

小長井のスタートは鹿島田の10分前。鹿島田以外は、入賞者でも軒並み90分レベルになることもあり得ると見ていた様である。とすれば、プランナー達が甘いのか、インカレにかける学生の気合が想像を絶するのかが。結果は、90分までに23人が入る、選手達の健闘に終わった。しかも、83分32秒の5位高橋（千葉大4）から、10位竹澤（東大4）までがちょうど1分。秒差を競う、極めてハイレベルな争いとなった。

各入賞者の細かいタイムは別表の通りであるが、目立つのは鹿島田浩二の中盤のもたつき。

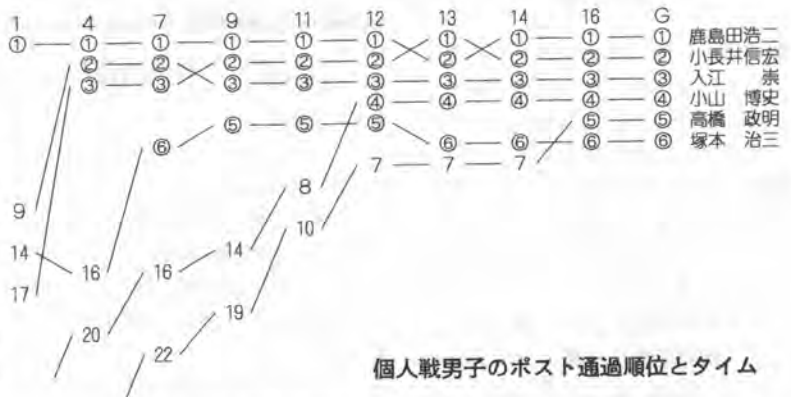
「ルートチョイスが下手なんです。一旦決めたら、そのルートをたどるのは誰よりも速いと思うんだけど、人がこんなのとらぬいな、というルートを時々とっています。2年・3年ぐらいの頃、一時期ミスがなくなっただけで、今年に

なつてぶり返してインカレでも出ました。枝尾根をトレースするのが、このインカレの課題だと思っていたのに失敗しました。でも、（インカレでない）普通の大学大会だったら、あれぐらいのミスだったら差をつめられることもないと思います。」（鹿島田浩二）

それでも終盤で盛り返してくるのは、さすが鹿島田といったところか。鹿島田は、4年連続の入賞と共に2連覇を達成した。2位小長井。3位・4位は入江崇・小山博史の東北勢が占め、5位は小長井とバックだった高橋政明（千葉大4）。6位は、前半のスタートの中で好成績だった、塚本治三（早大4）が入った。



鹿島田選手は、12、13と連続してミス  
を犯し、一時小長井選手に逆転された



個人戦男子のポスト通過順位とタイム

	1	4	7	9	11	12	13	14	16	◎
1 鹿島田浩二 (東大4)	8.51	17.30	28.36	33.51	46.33	56.20	62.18	68.53	76.08	78.15
2 小長井信宏 (京大4)	11.02	19.59	31.58	36.07	48.01	56.45	62.04	70.12	77.23	79.51
3 入江 崇 (東北大2)	10.17	19.48	31.48	36.12	48.30	57.49	64.23	72.08	78.31	80.49
4 小山 博史 (東北大4)	12.03	21.59	35.12	39.12	51.46	59.53	64.58	73.35	79.57	82.21
5 高橋 政明 (千葉大4)	11.31	23.12	36.02	40.16	52.05	60.47	66.07	74.21	81.19	83.32
6 塚本 治三 (早稲田大4)	11.00	21.38	33.50	38.02	51.18	60.08	65.55	74.07	81.27	83.38
		10.38	12.12	4.12	13.16	8.50	5.47	8.12	7.20	2.11

# 個人戦女子～奥山陽子・快走～

個人戦女子は、シード選手の渡辺弥生（筑波4）・酒井佳子（北海道大3）・志村聡子（早大2）などがくずれ、かつ、前年度チャンピオンの小西陽子（筑波4）も精彩を欠く中、奥山陽子（相模女子大4）が安定した走りを見せ初優勝を遂げた。シードの意地を示した形となる。入賞も昨年にひき続き2度目。もう1人、シード選手だった渡辺初実（日本女子大4）は、前半で大きくくずれながら、گارウじて5位入賞を果たした。

「今日みたいな感じのところは、結構ツボり易いと思ってたので、とにかくスピードを落として、よく地図を見てやればいんじゃないかと思ってやった。そう思ってたら、①→②の途中で10分前の酒井さんが現れて、気持ちがすごく楽になって、それからずっと同じペースでやっていた。それがまた⑥で20分前の渡辺弥生にあって、よけい冷静になって集中

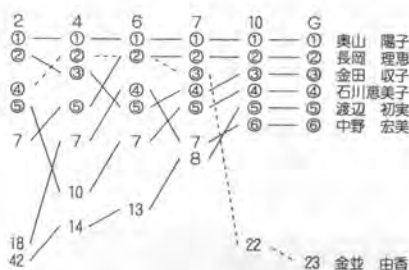
できたままレースができました。」（奥山陽子）

他のシード選手が彼女の優勝に一役買ったようである。

2位・3位には、ノーシードながら長岡理恵（千葉大4）、金田収子（静岡大2）が入り健闘を見せた。この2人と5位の渡辺初実、バックでラスポにあらわれた。4位はショートインカレでも入賞している石川恵美子（東北大3）、6位には、男子と同じく前半スタートの中で好成績を出した中野宏美（静岡大2）が入った。

なお、終盤まで3位と好調だった金並由香（早大3）は、単純な北の道走りルートである⑦→⑧でルートが見えず（道をかかして地図を折り曲げていたらしい）、尾根登りを開始。莫大なロスタイムを出して、入賞戦線から消えていった。

	2	4	6	7	10	⑧
1 奥山 陽子 (相模女子大4)	13.16	21.29	35.50	41.14	57.44	60.32
2 長岡 理恵 (千葉大4)	15.11	23.31	37.35	43.49	58.41	61.22
3 金田 収子 (静岡大2)	13.18	22.28	39.01	44.23	60.32	63.15
4 石川恵美子 (東北大3)	14.39	25.04	39.09	45.14	62.10	64.51
5 渡辺 初実 (日本女子大4)	18.47	28.11	41.48	47.48	62.28	65.22
6 中野 宏美 (静岡大2)	16.14	24.20	38.34	47.01	62.59	65.55



個人戦女子のタイムとポスト通過順位

## 最後のインカレを終えて

奥山 陽子



個人戦最終ポストの奥山選手

私にとって最後のインカレが終わりまりました。4年間、一番目標にしていた大会がインカレでした。それだけ思い入れの強いインカレで、私は憧れの優勝カップを手にすることができました。表彰台の上はとても見晴らしがよくて、クラクラ、ガクガク、まともに立ってはいられませんでした。

インカレ前、私はシード選手に選ばれました。多少のプレッシャーは感じましたが、いわゆる優勝候補とされていなかったようなので、最後のインカレはエリートクラスを思い切り楽しんで、次の日につながる走りをしようと思っていました。

それが、インカレ前夜一転しました。たまたま手にしたT大学の広報紙に、インカレ予想の記事がありました。いくつかあった予想のうちの一つが、目に止まりました。個人戦入賞候補の中に、シ-

ード選手6人のうち私の名前だけが挙がっていませんでした。「今年度の成績じやあ、こんな予想されても当然かもしれない」と思ったのですが、やっぱり悔しかった!!「楽しんで走ろう」と思っていたのに、気づいたら「この予想を書いた人をあつと言わせて見せるっ」と熱くなっていました。私は負けず嫌いなんです、相当に。

当日の朝、熱くはなっていたものの、変に力が入っていたりせず、とてもリラックスしていました。しかし、プレスタート地区に着いて、前の選手がどんどんスタートしていくのを見ると、さすがに緊張してきました。と同時に、最後のインカレなんだという想いが、くっつき込みあげてきました。

プレスタート1分前。胸の鼓動がだんだん大きくなる。どうしよう。とその時、同時スタートの男子シード選手のN君が、急に後ろを振り返って、オフィシャルの人に向かって、「どうしようOOさん、トイレに行きたくなくなっちゃいましたよー」これからスタートする、という時にですよ。あまりにも真剣に困ったように言うので、逆におかしくなって大笑い。緊張の糸が緩んでしまいました。そしてスーッと、余計な力が抜けていきました。そう、インカレという大舞台へのスタートを、笑って迎えたのです。

結果は私も、皆さんもビックリするようなものとなりました。私が優勝するなんて誰が思っていたでしょう。私はあまりOLが上手ではありません。今まで、負けず嫌いの性格と、最後まで絶対諦めないという根性だけで走ってきました。私がインカレで優勝できた理由。それは他の人が緊張して、いつもの力が発揮しにくいインカレという大舞台で、私はT大学の広報誌を読んで、負けず嫌いの性格を思い切り刺激されて火が付き、余分なエネルギーをN君の一言で笑い消して、最高の気分でレースに望めたから…ではないでしょうか。

インカレで優勝できて、とつても幸せです。でもそれ以上に、4年の月日を、多くの仲間やライバルたちと共に過ごせたということが、何よりも幸せだったと思います。

現役の皆さん。学生の間は思いっきりOLができます。思う存分OLを楽しんで下さい。そしてインカレという素晴らしい舞台上、最高のレースができるよう頑張ってください。

最後に、インカレ実行委員会の皆様、多くの仲間、多くのライバル、励まし応援して下さい。全ての人に感謝します。今までどうもありがとうございました。

—4月から学生オリエンティアを卒業して、社会人オリエンティアとして新しい一歩を踏み出します。



## 団体戦男子 ～東大リレー初の2連覇～

個人戦の結果を見ると東大・東北大・早稲田大・広島大などの活躍が光る。団体戦前夜、提出されたオーダーを見て、コースプランナーの樋口はこう語った。

「東大の走順はミスじゃないですがねえ。3走山本君がカギをにぎりすぎているでしょう。2走までで3分以上離してトップに立ってほしいば可能性はありますが、2走で集団になって前がいますけど、相当きついですね。今年の彼の走りを見た限りでは、鹿島田（4走）でもどうしようもない穴をあけそうな気がします。

そういう意味では、東北は順当な走順じゃないでしょうか。

早稲田は、一番オーソドックスで堅い走順ですね。どう入れ替えても変化がないという見方もありますけど。3位は堅いけど、優勝はしんごいかな。走順というよりメンバーがそんなような気がします。

広島は、期待してるんですけど、ちょっと走順ミスかな。やっぱり1走が間違いでしょ。1走に、内海が吉村、どつちかが走らないと厳しいかな。1走の山根君で、運よくついていくのは、ちょっと可能性が薄いんじゃないかな。ただ、そこで運よくついていけばおもしろいけど…。

京都大学は小長井までもたないでしょうね。やっぱり2位集団の先頭ということでしょう。小長井のところで、6位争いは確実にからんでくるけど、3位争いに入ってくるのはかなり厳しいでしょう。1走の白神にかかっていますね。白神が第2集団だったらメダルは厳しいかも知れませんね。

他にメダルを狙えそうなのは…慶応は今日よくなかったし、村越さんは静岡と言つてたけど、まあ厳しいでしょう。」

さて、東大の走順と作戦について、「走順は3月の初めの春合宿で決定し

### 鹿島田浩二、最後のインカレを終える

鹿島田浩二。直接面識のない学生にとっては、神様のような存在だろう。筆者は、全日本大会の前日に行われた中九四学連リレー大会で、ある関西の女子大学生に頼まれて、彼との握手をとりもってあげた。アイドル性も兼ね備える。

鹿島田がOLを始めて10年。初めて注目をされたのはトータス5日間大会のあった中学3年生の時。今は亡き佐藤八吉さんの走られたH40Aと同じコースで、八吉さんのタイムを上まわった。3日目のスタートで初めて村越さんに声をかけられたのが、うれしかったという。それから7年。周囲は「村越VS鹿島田」を楽しむようになった。

注目された全日本大会だったが、村越

さんには大敗？2位だから他の人と比べて決して悪くはないはずだがと言いがらも、周囲の期待に対しては、

「1分のミスもしていない、いいレースだった。自分では走ったつもりで、ああいう結果なんてどうしようもない。村越さんが本当に速かったというしかないから悔しいというか、どうしていいかわからないというか…。村越さんも、あと2～3年は勝つつもりでいるだろう。僕もよく、何もわかってない先輩から「お前、勝てよ!」とか言われるけど、勝てないことは勝てないんだから、すごいなーと思ってしまう。本当にこの全日本ですごいと思った。まだ僕の方が平地のスピードが遅い。でも、そんな大差じゃな

いからトレーニングで克服できるレベルだと思ってる。勝つ努力はするけど、結果はどうなるかわからない。」

インカレでは、数々の輝かしい成績を残してきた彼だが、課題はまだ残る。今後のことについては、

「学生は大学をあと1年。院にも行くつもり。その間に今と同じ感じでやっていて、全日本はもちろん、世界的に通用するようになりたい。今年はアメリカ（世界選手権）もあるが、リレーももっといい成績を上げたい。ただ、村越さんが現役で走っているうちがチャンスなので、アメリカがチャンスだと思っている。」

更なる飛躍が期待される。



個人戦11番ポスト直後のカッシー

	インカレ（個人）	全日本	海外大会
1年	2位	H21E 8位（準）	
2年	3位	H19-20E 優勝	エボリューション71位
3年	優勝	H19-20E 優勝	世界選手権50位
4年	優勝	H21E 2位	ワールドカップ

#### 鹿島田浩二大学4年間の成績

「1年の時は何もわかってなかった。努力ということもあまりなくて、なんとなくで失敗した。2年でユニバーに行つて考えが変わった。自分の先10年・15年をかけてやってみようと思った。トレーニングを人並み以上にしようと思ったのはこの頃から（200-250Km/月）。その年は、インカレも勝つつもりでいた

が、トレーニング不足で負けた。3年で5月～9月、主にスウェーデンに留学。世界選手権もかなり充実した成績。手ごたえがあった。この年から更にトレーニング増えた（300Km/月）。その年は、インカレは勝てた。」（鹿島田）

そして4年。今回のインカレを経て5年へ。今日に至る。

た。鹿島田さんを4走におくことは、一番最後に勝てる可能性が高いということでもまづ決まった。次にヒディー（山本）が3走をやりたいという本人の希望と、まわりの考えが一致して決まった。1走・2走はもめたが、僕の方が確実に遅れることなく帰ってくるということで、特に1走で引き離す必要もなかったので1走に決まった。レース展開の予定としては、1走がトップ集団から悪くて3分。2走の卓弥でトップに立つ。3走のヒディー君が、よければトップ、悪くてもトップから5分差。それなら、最後鹿島田さんで逆転できると思っていた。」（東大・桜井太郎）

結果的に東大は、思惑通りのレースを展開する。東北大とトップを奪い合いながら、最後はエース鹿島田が逆転劇を演じ、2年連続、通算5度目の優勝を遂げた。これで、男子団体戦は、その優勝回数において東大が単独トップとなった。



団体戦男子の順位変動

	1 走	2 走	3 走	4 走
1 東京大学	桜井 太郎 56.06 (DW)	鈴木 卓弥 1.50.45 (CZ) 54.39	山本 英勝 2.53.25 (BY) 1.02.40	鹿島田 浩二 3.45.41 (AX) 52.16
2 東北大学	高橋 政喜 59.30 (CZ)	小山 博史 1.54.50 (DW) 55.20	入江 崇 2.50.44 (AX) 55.54	安斎 秀樹 3.48.33 (BY) 55.49
3 京都大学	白神 謙吾 59.02 (CZ)	平田 正哉 1.57.21 (DW) 58.19	小長井 信宏 2.54.44 (BX) 57.23	川前 紀尚 3.53.28 (AY) 58.44
4 千葉大学	吉村 雅仁 57.37 (CW)	高橋 政明 1.54.48 (DZ) 57.11	岡安 隆史 2.56.53 (AX) 1.02.05	佐々木 良紀 3.55.42 (BY) 58.49
5 筑波大学	中嶋 陽一 56.00 (CW)	砂川 貴幸 1.58.42 (DZ) 1.02.42	松下 愛則 2.56.57 (BY) 58.15	山田 隆浩 3.56.24 (AX) 59.27
6 広島大学	山根 卓二 55.54 (CZ)	内海 はやと 1.53.15 (DW) 57.21	尾川 正洋 2.56.51 (AY) 1.03.36	吉村 年史 3.56.55 (BX) 1.00.04
7 慶応義塾大学	中村 一樹 1.00.47 (DZ)	稲津 隆敏 1.58.31 (CW) 57.44	矢萩 靖 3.04.00 (BX) 1.05.29	潮見 隆之 4.17.56 (AY) 1.13.56
8 静岡大学	中堀 剛 56.23 (CW)	小林 哲 1.56.56 (DZ) 1.00.33	早河 秀章 3.01.22 (AY) 1.04.26	坂野 晴彦 4.27.47 (BX) 1.26.25
9 神戸大学	伊藤 孝剛 1.02.21 (CZ)	橋本 俊二 2.06.38 (DW) 1.04.17	寺村 和仁 3.18.12 (BX) 1.13.34	三上 雅克 4.28.43 (AY) 1.10.31

団体戦男子のタイム

東北大は、2年連続の2位。またしても東大の壁にはばまれた。レガシ、若きエース、入江はこう語る。

「目標は優勝だったんですが、テラインガテクニカルなテラインだけに、無理に優勝を意識したメンバーは組まずに、自分の大学が一番速いタイムで走れるメンバーでいきました。無理に優勝しようと思わないようにしようと思ひなで言っていました。1走で5〜10分遅れても全然平気で、2走と3走の小山さんと自分である程度せつて、最後の安斎さんに足があるんで、もし最終ラジコンまでせつてたらウチの勝ちだろうと思っていたんですけど、最終ラジコンが鹿島田さんが先だったので、納得のできる準優勝でした。ちょっと悔しいですけどね…。来年は、東大は鹿島田さん抜けるし、ウチも小山さんが抜けるけど、だいたいメンバー変わらないし、来年も東大といひ勝負ができるんじゃないかと思ひます。」

（東北大・入江崇）

レースは、1走で早稲田大・原がトップで入る。原は、関東インカレ団体戦についてのトップゴール。早大とともに、広島大、山口大、筑波大、東農大、東大、静岡大がほぼ集団に近い形で1分以内にゴールをしている。

2走でトップに立ったのは、東大・鈴木卓弥。スタート前は、最終ラジコンで1走桜井がトップから1分遅れとなって

いるのをボードで見て、喜んでたそうだ。彼にとっては見せ場ができた。①→②で早々に早大と東農大をとらえる。⑦を過ぎる頃には1人になっていたようだ。2走は東大がトップで入った後、東農大、早大、広島大が2分半程遅れてバックで入り、更に1分半ほど遅れて、茨城大、千葉大、東農工大、東北大がバックでゴールする。

東北大は、エース入江の登場。ゴールをした時にはトップに立っていた。

「1走で2分半くらい遅れたんですが、それは予定通りだったんで全然あわてませんでした。2走でちょっと離されたのは、僕としてはもう少し詰めて欲しかったんですけど、だけど挽回は全然可能だと思つてましたんで、前だけ見て自分は走つてました。後半、東大と一緒に走つてたんですけど、ずーっと前にいると思つてたんでびびりました。東大とせつて、最後引き離して帰ってきたんですけど、自分が帰ってきた時には早稲田がずーっと前にいると思つて、帰つてきてトップだったって聞いたんでちょうど予想したパターンでした。」（東北大3走・入江崇）

その先に出ていた早大3走は、1年生の鈴木篤。前年度インターハイのチャンピオンで、前日の個人戦は9位と健闘。早大の思い切った起用であったが、前半から大きなロスを出していく。早大は優勝戦線から離脱した。

3走は、東北大の後、2分半程遅れて東大が入った。

東大のエース鹿島田が、東北大4走・安斎を追う。そのタイム差について鹿島田は、「これなら勝てる。ヒディー（山本）よくやってくれた。」と言ひ残していったそうである。



東京大2走→3走  
優勝のカギを握る山本選手のスタート

鹿島田のレース状況については、東大OLKの会報から抜粋させていただきます。

「…(前略)…③も順調にとって④へ、次はもうラジコンガ。タイムは？おっ、なかなか速いぞ。道をいくと、④のある神社がはるが遠くに見えた。安斎の姿は見えない。おかしいな、もう抜かしちゃったのかな、①あたりでバラしてはまってんじゃねーか？可哀相なやつ。後ろを振り向くけど誰もいない。まあいいやこのままいけば優勝さ。ポストについてパンチ、ラジコンの役員顔を伺う。ポーカーフェイスしてるけど、あれは東大のトップに驚いているのさ。次は⑤、それにしても走ってばかりのコースだな。

⑤、⑥と順調にとる。⑦へは尾根沢きって、伐採の角を通過、斜面をおりて、あれっ沢底を歩いているあの足の長い奴は安斎じゃないか！まだ抜かしてなかったのが、安斎も成長したなあ。こちらを振り向いたが、慌てることなくゆっくりと地図を見て北に上がって行く。おかしいな、あっちじゃないぞ、と地図を見る。うんうん、こっちの枝沢に入らなくちゃ、彼とは違うポストなのかな。

⑦をとって尾根に上がる。よしこれらが勝負、と尾根道を走りだすと、前方から人影、こっちに向かって勢いよく走ってくる。あのピンクと緑のウエアーは？やや、安斎めつぼったな(村越調で)、実は同じポストだったのね、これはラッキー-1分30秒は差があるぞ、これはセーフティーリードに近い、あとはミスらないようにすれば優勝だ！

⑧、⑨、⑩と速くはないけどロスなく通過、後はもうゴールへのつなぎだ。11へは道走り。『市街地でつばらないで下さいね』桜井がいたずらっぽく笑って言ったのを思い出した。そうそうこんな所でつばったら馬鹿だ、気をつけないと…。

⑪をとって時計を見る、入江より3分くらいは速いタイムが出そうだ、よしよし、でもそれにしても入江は未だ恐ろしい奴だ、こんなにいいレースをして3分しか差が開かないなんて。⑫の脱出は卓弥がつぼって気を付けろと言っていた所だ。なるほど、慎重に行こう。でも主要道には普通出ないぜ。

池横の道でラジコンガがあった。今度こそ東大のトップを伝えてくれよ！

⑬はきつい登り、これガインカレ最後の登りだ、悔いのないように登らなき



東京大のウイニングラン  
左から鈴木卓弥・鹿島田浩二・山本英勝・桜井太郎の各選手

や。なんとか走って登る。⑬をとって後は走るだけ、みんなが待っているから速く帰りたいけど足は言うことを効かない。走っても走ってもゴールは見えない。もう疲れたよ〜。あ、やっと見えてきたぞ、3人が待っている。よしよし、本当に優勝だな。役員にレイをかけてもらい、3人と一緒に走る。スピードを緩めてウイニングランだ。4人並んで走ろうとしたら「鹿島田さんが前を走らなければだめなんです」と卓弥に言われた。まあいいや、とにかく勝つのだ。急に嬉しさがこみ上げてくる。OLKの皆も喜んでくれる。ゴールまでほんの30秒だったが、最高の一瞬だった。」(東大OLK会報『Rough And Fine』より)

東大、東北大について、3位で入ったのは京都大学。結果的に3位までは昨年と同じ順位になった。今年の京都大については、

「戦力的に、東大とがにひけをとってるけど、悲観的な雰囲気はなくて、とにかく3走の小長井につなげば、小長井が飛び出るから、1・2走は楽に走れる。それで川前が小長井の順位をキープという作戦だった。」(京都大3走・小長井信宏)

3走の小長井が、4位にまで順位をあげ、アンカー川前は「途中②番ポストで農工大の姿を見て、あとは自分の走りをした」ということで、他校の追撃は許さず、堂々の3位でゴールする。

4〜6位の入費争いは、筑波・千葉・広島との3校が演じた。

4位千葉大学は、昨年度の雪辱を果たした。

「目標は3位でした。前半を有利に進めたいんで、エースが2走、第2エースが1走という形にしました。3走・4走が2年生だったんで、心配だったんですけど、あの緊張の中で、力を出し切ってくれたんで、僕としても千葉大としてもうれしかったです。去年が19位だったんで、今年はどうしても入費ははずせなかったんで、価値ある4位だと思うし、今年が若いチームだったんで、来年以降もっと強くなるんじゃないかなと思っています。」(千葉大チームオフィシャル・青木卓也)

5位筑波大学は、密かに優勝を狙っていたようだ。

「爆弾がかえながら優勝を狙えるメンバーだった。他がくずれないとダメだとは思っていたが、東大がああ走順でラッキーと思っていた。展開時には、私が成功すれば、優勝にからめていたんですけど…。1走が1番いい位置で帰ってきて、当初のシミュレーション上では、私がトップに立つはずだった。しかし、エースは足をひっぱった。あとは、3・4走で彼らの実力が出て、気がついたら上がっていた。4走が中間で、京都大が見える範囲に追いついて、とにかく京都は抜きだと思っていたところへ、コンタクトレースが片方とんだ。あとは京都に置いていかれて、すぐ近くには千葉・広島がいて、広島とパターンが同じだったみたいで、ラストすぐくらいで広島とウチが一緒につぼったすきに千葉が抜け出した。広島とはラスト前を一緒にとったんだけど、足では吉村君(広大4走)に勝てると思っていた。(筑波大4走の山田と広島大



4走の吉村は、全日本リレーで共に福岡県チームで知り合いだった。」(筑波大2走・砂川貴幸)

広島大は、6位で初入賞。優勝をした女子と共に、活躍が目立った。

「1走がうまく帰ってくれば入賞はできるんじゃないかと思っていた。1走はよかったが4走の俺がぼっちゃった。たぶん京大に追いついたと思ったが、こっちがぼっちゃって置いていかれてしまった。京大が抜け出したというべきでしょうね。」(広島大4走・吉村年史)

広島大も、東北大と共に来年以降の活躍が期待される。

最後に、もう一度東大OLKの会報から、鹿島田の言葉をプレゼントしたい。

「さて、来年はどうなるか。僕はもちろん東大に優勝してほしいが、個人的には是非東北大にも頑張ってもらいたい。高橋、安斎、そして入江と楽しみなランナーがたくさんいる。東北大のような大学が成功する事は、OL界のレベルアップに絶対につながるのだ。東北大を「足だけ」とあなどる輩はオリエンティアではなく、只の地図マニアだ。何故東北大が速いのか？真剣に彼らから学ぶべきことは多い。」(東大OLK会報『Rough And d Fine』より)



団体戦1走(スタートポスト付近)

## 団体戦女子～広島大初優勝～

団体戦女子は、混戦というのが戦前の予想。一応は筑波が本命とされながらも、相模女子大、早稲田大、津田塾大などがそこそこに充実した戦力を持ち、更に個人戦で活躍が目立った静岡大、関西ではウエスタンカップリレー大会等でも実力を示していた広島大などが注目をされていた。

結果は、1走から飛び出した広島大が、他校の追撃を許さず初優勝を遂げ、4連覇を狙った筑波大は4位に留った。インカシにリレー制が導入されて以来、筑波大とお茶の水女子大以外からの優勝校が出たのは初めてである。

1走トップで入ってきたのは、広島大の植田佳子。2月に行われた全日本リレーでも広島県の1走として4位で帰還。ウエスタンカップでもトップで帰ってくる実績を持っていた。広島大は序盤から計算通りの展開となった。

反して、4連覇を狙う筑波大には序盤から苦しい展開。1走小西は2位で帰ってきたものの、広島大との差は約1分半。1・2走で大きく他校をつき離さないと優勝のできないオーダーだけに、2走の渡辺弥生には既にこの時点であせりが生じていたのかも知れない。

1走3位は奈良女子大学。将来に期待のかかる2年生、梅本敏子が健闘した。

4位は、筑波大から6分弱遅れて静岡大が出た。

「私が戦犯です。いつもだったらリロケートの時、もっと冷静に考えるのにそれができなかった。③→④でペースが落ち、⑤⑥で痛恨の逆アタックをしてしまって、ここで完全に判断を誤った。それが一番大きかった。」(筑波大2走・渡辺弥生)

「4位でタッチ。ほとんど誰にも会わなくて個人戦のように走れてよかった。一回10mくらい先に弥生さん(筑波)の後ろ姿を見たんだけど、変なところへ行こうとしたから、おかしいな、と思って、そこで離れたらあとで弥生さんが逆走してきてすれ違ったから、あー、間違えたのか、と思って楽になりました。弥生さんの方が、つらいだろうなあと思う



広島大2走・稲村選手

ました。」(静岡大2走・金田収子)

静岡大から、更に3分半程遅れて相模女子大の2走が出る。他の有力校も、1走は大きく遅れるところが目立った。

しかし、ここで各校の2走が大活躍を演じる。特に目立ったのは、18位から12人抜きで4位に引き上げた千葉大学の長岡理恵、18位から11人抜きで7位の日本女子大学・渡辺初実、20位から12人抜きで8位の津田塾大学・伊藤晶子達である。



千葉大2走・長岡選手

千葉大学は、昨年に比べると著しく戦力ダウン。今年は、入賞を狙うのが精一杯のレベルとなっていた。しかし、千葉大のこの環境は、むしろ選手達の自覚を促したのかも知れない。個人戦に続く長

岡の大健闘は賞賛に値する。

日本女子大学は、昨年度は大きく戦力ダウンしながら3位入賞という健闘を見せ、今年は更にその上を狙っていた。千葉大にせよ、日本女子大にせよ、2走でできる限り上位に立ち、3走でどこまで逃げ切れるかが勝負であったと思われる。3走に弱みを持つ両校にとつては、1走の大きな出遅れが入賞を遠いものにしていった。

それに比べると、津田塾大学は戦力が充実していた。2走を走った伊藤晶子は89年度、91年度のインターハイチャンプ。1年生ながらの活躍が期待され、更に3走にはエース・千葉あかねがひかえる。ただ、心配事は伊藤のひさの故障だった。インカレ直前の合宿で故障。個人戦選手権クラスの出場を断念し、団体戦にかけた。

「順位より、足の痛みの方が気になって…。痛くなったら、その時はその時だと思っただんですけど、なんとか抑えるこ

とができて、自分では楽しいレースができてよかったと思っています。最初4人ぐらいのバックで、だいたい初実さん（日本女子大）と一緒にいて、彼女のことはあまり意識しなかったんだけど、このペースでいけばいいかと思って最後まで走りました。」（津田塾大2走・伊藤晶子）

2走は、依然広島大がトップをキープして帰ってきた。

「3走で、待っている時『どうしよう…』とか言ったら、山口大オフィシャルの小山さんが、筑波を見せて『筑波の3走はもっとひどいかも知れない』と言ってくれました。」（広島大3走・石黒佳子）

「稲村さんがトップで帰ってきた時は、『こりゃいける〜』と（稲村さんと）2人でわくわくしていた。」（広島大1走・植田佳子）

2位の静岡大が遅れること約5分。筑波は更に約3分。2走の渡辺弥生をどんな気持ちで待っていたのが、4連覇の夢と伝統を背負って、筑波のアンカー・角が出る。



スタートを待つ緊張の広島大3走・石黒選手（後ろには筑波大の小西・角の両選手）

## スポット

### 広島大女子の軌跡

インカレが終わって、数日たった頃、かつて活躍していた広大女子のOG市村理恵に電話をかけてみた。まだ朗報は耳に届いていなかったようだ。大変な驚きで迎えてくれた。

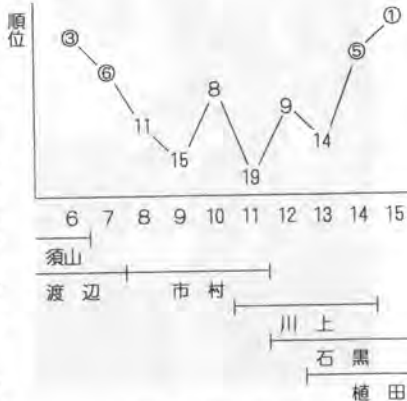
広島大の女子部員は、今回のインカレ時点でわずか4人、4年生の石黒と2年生が3人である。ここ10年をさかのぼってみても、オールキャストで十数人。筑波や千葉は別として、国立大学としてはこんなものかも知れない。彼女達の活躍ぶりを個人戦の成績で追ってみると、おもしろいことに7位が3人いる。第6回大会（大阪）の須山美千代（旧姓）、第11回大会（奈良）の市村理恵（旧姓）、第13回大会の川上留美子である。広大女子の歴史は、この3人の時代にそれぞれ区分ができそうである。

須山の時代には、1つ下に渡辺範子（旧姓）がいる。今でも現役生達のめんどうを見ている下江範子のことである。団体戦が個人戦の総合成績で争われた最後のインカレである第6回大会で、この2人が走り3位入賞を果たしている。リレー制が導入された第7回大会も渡辺範子が走って6位。渡辺はここで去る。入れかわりで登場したのが市村理恵。しかし彼女は、今一つメンバーに恵まれなかった。彼女の代に3人の部員はいたものの下2年間は部員がいない。結局、彼女の在学中には入賞をすることがなかった。「私が速かったとしても、残りの2人が普通のレベルだったので、4年の時も1年2人に出てもらって、下を育てようとなりました。」（市村）

名前が変わって、のちの場理恵となっている彼女の電話口では、赤ん坊の泣き声が聞こえる。彼女ももう、すっかりOL界から遠ざかっている。



団体戦表彰式左から植田佳子・福村仁美・石黒佳子の各選手



広島大女子の時代推移

この時の1年というのが川上留美子達である。川上留美子は当時京都大学で活躍していた川上充子（旧姓）の妹で、高校生の頃からOLをふきこまれ、そのあげくにはまってしまった。この川上の1つ下に石黒が現れる。石黒が2年生になる頃、川上の代は3人、石黒の代が石黒ただ1人となった。川上は、石黒をひっぱって2人でよく遠征をしたようだ。

「1月のスコードジュニア女子合宿にも行った。だんだん石黒が目ざめていって、1人でもどンドン行くようになって。2年の終わり頃から、エリートを走りたいたいと言いだした。『みんなでがんばろう』と燃えてました。」（川上留美子）

石黒の下には更に2年間部員が入らなかったが、川上が4年生の時3人の1年生、今の植田達が入部する。川上と石黒がその1年生達をひっぱっていた昨年のインカレ。広島大学は7年ぶりの入賞を果たす。広島大学の成長に大きく貢献しているのは、広島OLCのようだ。合宿etc.を通して相互に交流があるようで、広島OLCを通して広島大学のOB達も現役生達のめんどうをよく見ている。下江御夫妻や、太田尊司君他、山口大学のOB達にもお世話になっているそうである。人数が少ない分、かえって指導もいき届いているのだろう。

「冬合宿とかもコーチにきてもらった。ほとんどマンツーマンです。女子が少ないので、練習が男女一緒。走力がついていった。言われてはいたが、走ってみてやはりそうだったのを山の中で感じた。」（植田佳子）

部員数という根本的な問題はかかえるが、今後の地方国立大学の発展の為に更なる活躍を期待したい。

筑波から、更に遅れること6分から8分にかけて、千葉・金沢・相模女子・日本女子・津田塾…と有力校が次々とゴールする。

広島大学のアンカー石黒は、決していいレースをしていない。しかし、それを追う静岡大と筑波大も同様だったようだ。むしろ、広島大から14分以上遅れてスタートした相模女子大のアンカー、個人戦のチャンピオン奥山陽子ガものすごい追い上げを見た。

しかし、広島大はかろうじて逃げ切った。

最終コントロールに石黒の姿が現れた。ウイニングランの許可が微妙だったところ。大会副実行委員長の金子勉からOKのサイン。そして石黒にレイガかけられる。石黒はなおも力走。待っていた2人がついて行けない。最後まで独走のまま、ゴールレーンに入った。広島大学の初優勝である。



石黒選手のウイニングラン

## 団体戦女子の順位変動とタイム

	1走	2走	3走
1 広島大学	植田 佳子 (BZ) 43.48	稲村 仁美 (BY) 1.30.38 46.50	石黒 佳子 (AX) 2.25.15 54.37
2 相模女子大学	大村 理香 (AY) 54.34	苗村 恵子 (BZ) 1.44.54 50.20	奥山 陽子 (BX) 2.27.26 42.32
3 静岡大学	原 志保子 (BY) 51.00	金田 収子 (BX) 1.35.33 44.33	中野 宏美 (AZ) 2.28.19 52.46
4 筑波大学	小西 陽子 (BY) 45.15	渡辺 弥生 (BZ) 1.38.28 53.11	角 枝実 (AX) 2.29.35 51.09
5 京都橋女子大学	橋本 かよ (AX) 1.03.53	芦田由美子 (BY) 1.54.32 50.39	高木貴美江 (BZ) 2.37.26 42.54
6 津田塾大学	渡辺 寿理 (AX) 1.02.14	伊藤 晶子 (BY) 1.48.57 44.43	千葉あかね (BZ) 2.37.28 50.31
7 千葉大学	本間 厚子 (BX) 58.24	長岡 理恵 (BZ) 1.44.23 45.59	春田 美由 (AY) 2.37.39 53.16
8 日本女子大学	石川 律子 (BX) 1.02.12	渡辺 初実 (BY) 1.45.54 43.42	幡野 淑子 (AZ) 2.45.00 59.06
9 早稲田大学	馬場 亮子 (AZ) 1.08.42	志村 聡子 (BY) 1.59.38 50.58	金並 由香 (BX) 2.46.49 47.11

## スポーツ

### 京都橋女子大学・悲願の初入賞

京都橋女子大学が初めて注目を集めたのは今から3年前。秩父インカレの年である。その年のウエスタンカップリレー大会でOLP 兵庫を破り、優勝を果たした。話はさかのぼるが、その前年、橋は、異例にたくさんの入部者を迎える。後の塩野恵理子・江角裕子達であるが、当時はまだクラブとしても極めてマイナーな存在だった(当時はまだ関西大と合同の活動)。それでも何故かタコと化し、やる気も満々な彼女達に、しかし大きく欠けていたものは、指導者の存在であった。最終学年を迎えようとしていた当時の部長・森美奈は、寺嶋一樹氏に監督を要請する。寺嶋氏がそれを受けた時、橋女子大に新しい時代がスタートしたのである。寺嶋氏の他、関西のそうそうたるコーチ陣を集め、橋は着実に成長していった。その成果が、まず現れたのが先のウエスタンカップである。その勢いによって秩父インカレでも入賞を狙った。若きエース江角(当時2年)が活躍する。1走を4位で帰ってくる健闘。しかし、入賞は

果たせなかった。クラブを成長させた森が去り、夢を後輩達に託す。寺嶋監督も、江角や塩野達が在学中に、なんとしてもメダルを手にはさせてあげたかたに違いない。

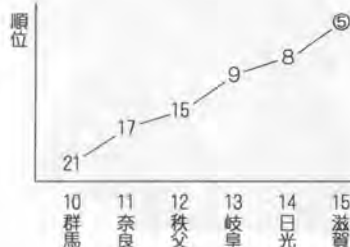
彼女達が最終学年を迎えた昨年の日光、エース江角は病でメンバーからはずれる。塩野達がかんばった。レースのアンカーは新星・高木貴美江(当時2年)。しかし、最後までもつれた熾烈な入賞争いの末、橋は、秒差をもってまたしても入賞を逃したのである。夢はさらに新たな世代へと持ちこされた。そして、寺嶋監督が退き(寺嶋氏は本インカレのテクニカルアドバイザー補佐)、チームオフィシャルには塩野と江角が就任。「今年はいけますよ」江角の力強い発言が頭に残る。

あれから4年。京都橋女子大学は、ついに悲願の入賞を遂げたのである。彼女達には、先輩達の言葉を送ってあげたい。「初めは、『メダル取れるからな』というのが信じてもらえないところから始まったけど、絶対取れるからって何回も

言ってきて、それでも毎年毎年はねかえされて。みんなはどう思ってたか知らないけど、俺にとっては夢みたいところから始まっているから、みんなはよくやっていると思います。非常にうれしかった。」(寺嶋前監督)

「自分が4年の時(秩父インカレ)に、メダルを取れそうところまでできておきながら、取れなかった悔しさは、やっぱり尾をひいていたので、いつかは取って欲しいなと思ってたんで…感慨深いものがあります。これをバネに毎年メダルをとり続けて、どんどん順位を上げていって、5年後ぐらいは優勝して欲しい。」(森美奈)

「6位争いしてるって放送入った時から、きみちゃん(高木貴美江)が現れるまでが一番ドキドキしていました。現れて『あっ、やったな!』って感じですね。今まで追いかけていたものが手に入ってしまったからといって安心しないで、更にも上を目指してがんばって下さい。」(塩野恵理子)



京都橋女子大の成績推移

初入賞のメンバー  
左から  
橋本 かよ  
芦田由美子  
高木貴美江  
の各選手



「優勝かかると思ったらつぶれると思ったから、意識しないようにしてたつもりだったけど、それがつばりに出てしまった。(優勝とは分かってなくて)レイをかけられた時『じゃまだなあ』と思ってた。自分がつぶってたから、早く帰らないといけないと思ってたから…」

(優勝は)ゴールした瞬間に自覚した。信じられなかった。」(広島大3走・石黒佳子)

「タッチは6位で受けた。スタートフロッグまでの間に、千葉と金沢に追いついて、それからは淡々と1人でずーっとやって、中盤の道走りのあとに、山に切りかわったところで、いきなり筑波が上の方でガサガサでできた。『あー、筑波がつぶってるな』と思って、ここで離さなきゃと思って後ろを振り返りながら行ったんですけど、全然見えなくて、次ののをとってちょっと下の方を見たら、ちょうど筑波と静岡のトリムが見えて、もしかしたら2位に上がったかなと思って、ずーっと来たら、ラスポとつる瞬間に広島ガトープの放送を聞いた。」

(相模女子大3走・奥山陽子)

「2位でタッチを受けました。④へ行く途中つぼって、そこつたあとで、筑波に追いつかれてその3走(角校実)がライバルだったものですから、そのままのままでずっとバックでした。つばりあいの展開でした。ここでつぼってる時、相模女に抜かれたと思います。結局私が順位を下げました。⑦ぐらいの登りで振り切って角さんを離しました。」(静岡大3走・中野宏美)

2位の相模女子大は、差を2分にまで縮めてのゴール。続いて、3位静岡大もゴールした。両校とも喜びのゴールであったと思われる。

「インカレのメンバーを決めようっていう時に、何位を目標に設定しようかということで、初めは冗談で優勝しかないねって言ってたんですけど、冷静に考えたら、やっぱり筑波にはどうしても勝てないんじゃないかと…。私達は入賞とかの経験がないですから、無理な目標よりも現実に達成できる目標じゃなきゃ意味がないんじゃないかと思って、じゃあ2位狙いでいこうということになった。私が3走やるっていうことは、去年のインカレが終わった時から言われていたんでそうした。やっぱり最後は、前がどんなに遅れても、お前が入賞まで上げてゴ-

ルしなきゃいけないって言われていたんで…」(相模女子大・奥山陽子)

「世代交替で若いチームだったので、もう気楽にやれって村越真さんに言われて。メダル取るとか、そういうプレッシャーはなかった。来年からだとか言われていたんで。」(静岡大・金田収子)

4位筑波は夢が敗れた。4連覇を逃したのは、第10回大会の群馬インカレに続いて2度目。若きアンカーをつとめた角の頭がたれて動かない。

「自主性がないチームだったと思います。ほとんどメンバーはコーチが決めて。どうして、このメンバーになったかというのは、他に走れる人がいなかったこと、昨日の結果を見てです。2走までで、とりあえずは勝てるように持っていくつもりだった。多少は相模女とか、静大とかはチェックしてたとは思いますが、大きく意識はしていなかった。自分達のレースをしていけばいいと思っていたから。」(筑波大・渡辺弥生)

最後の入賞争いは、千葉・津田塾、そして3走でものすごい追い上げを見せた京都橘女子大学の3つ巴の争いとなった。

「集団でタッチして、スタートまではパーっと行った。⑤番をパンチしてから、津田塾の千葉あかねが違うところからやってきて、ラスポまで併走。道走りは、ある程度千葉あかねの背中を見て走っていた。ラス前のパンチは、千葉あかねが間違っってピークを上げていったので先にパンチをした。コンタリングで道に出て、そこからはまた、千葉あかねが先に出た。私はゆっくり地図を見ていて、ピークを数えて、千葉あかねが手前の沢

に先に落ちてしまっって、そこで抜いてラスポパンチ。沢を下っている時に地図を落として、ちょっと振り返って少し戻って取った時に、ラスポを2人パンチしていた。それが千葉大だと思う。あとは無我夢中。」(京都橘女子大3走・高木貴美江)

「中間までは、結構いい調子でいって、途中で2人くらい抜いたのわかったから、入賞狙えるかなって意識して…そしたら、中間ラジコン通過したあと激しくつぼっちゃって、もう抜かれたと思って、『もうだめやあー』と泣きそうだった。とりあえず、元の場所へ戻そうと思ったが、橋の人が脱出している所で、それでリロケートして行けたかな。あとは一緒に。千葉大が前にいたらしいんですけど、ラス前で一緒になって、そのままラスポは列になって一緒に。」(津田塾大3走・千葉あかね)

ラスポから3枚が走る。最後のゴールは京都橘女子大の高木と、津田塾の千葉ガデットヒートだった。先にゴールレーンを通したのは京都橘女子大学。アンカー高木は、タイム的にも奥山陽子に次ぐ好タイムをマークし、京都橘女子大学に悲願の初入賞をもたらした。

津田塾大学は、3年ぶりの入賞。

伝統の千葉大は、最後で走り負け、秒差をもって入賞を逃した。



無念の筑波大女子・来年へのステップとなるか  
(右から小西・渡辺・角の各選手)

# 広島大学紹介

小倉 正幸

広島大学は、太田川の作るデルタの上、広島市中区東千田町に本部があり、4つのキャンパス・全11学部・学生数は約1万3千人の規模をもつ、国立大学としては1、2を争う大きさの大学です。また現在、広島市から東へ30kmのところにある東広島市西条町に9学部を統合移転する計画が進んでおり、4月からは本部署も移転して新キャンパスが本格的にスタートします。西条キャンパスの総面積は252ha、文字どおり“広大な広大”となります。

さて、私達、広島大学体育会オリエンテーリング部は現在部員35名、総合大学らしくすべての学部から参加しています。また、横のつながりはもちろん、縦のつながりも強く、笑いが絶えることがありません。ただ、女子部員が4人しかおらず、4月からは3人になってしまうので、女子部員獲得が大きな問題となっています。

練習は週4回、そのうち3回は放課後の17:00から1時間半ほど、学校周辺や太田川河川敷、近くの公園を走っています。ウォーミング・アップをしてから決められた時間走ることが多く、走る距離は自主性にまかされていますが、部員どうして距離を競いあうこともあります。また、女子も男子も練習内容がほとんど変わらず、「パワーがあるなあ」と私は思っています。

土曜日は、近くの山…といっても、大学から自転車で20分くらいのところにある、公園のようなところで、実際にポストを使ってオリエンテーリングをしています。あまり大きくない山のため地図の縮尺は1:5000で、また、ベタ・スクリーンの部分も多く、さらに海沿いにあるため、2年前の台風19号で倒木が増えてしまい、限られた部分を苦労して使っている状態です。ですから、初めて公認大会に出ると、縮尺1:15000で、白い部分の多い地図に戸惑う人もいます。

広島で活動していることで最も大きな問題となるのが大会参加です。同じ中九四学連に加盟し、学連を共に支えている山口大学の大会には必ず参加することにしていますが、山口市近郊までの距離が遠く、朝一番の電車に乗ってぎりぎり間にあうこともしばしばです。さらに、公認大会などの大規模な大会は関西以东、多くは関東で行われるため、大会参加も2日ばかりになります。土曜日の昼に広島を出発、普通電車を乗り継いで、大垣からは東京行き夜行快速、通称“垣鈍”に乗ってそのシートで夜を明かします。午前5時前に東京駅に着き、眠いのをガマンしながら大会会場へ向かうのです。会場に着いて競技を終えると、ゆっくりする間もなく東京駅へトンぼ返り、月曜日の朝の授業に出るために広島行きの新幹線に乗って広島へ戻ります。往復に30

時間かけて競技時間はわずか2時間、参加費2000円～3000円で交通費は2万円（東京三周遊券・学割14,010円+新幹線自由席料金6080円）ということもざらです。ですから、年間でオリエンテーリングにかかる費用の半分以上（もしかしたら80%くらいかもしませんが…）は交通費となってしまいます。しかし交通費をかけてでもいろいろな大会に参加する人も多くいます。昨年は北海道大学大会に参加した人もいました。

前にも書きましたが、4月からは新キャンパスが本格的に活動を始めます。このため、4月からは私達も新キャンパスを中心に練習を開始します。ここは、まわりが山々という、オリエンティアには絶好の(?)環境となります。どれほど環境がよいか、その例を1つあげてみますと、活動場所の1つに公園があるので、そこには大学が“マムシに注意”という看板を置いたぐらいのところですよ。これから、ますますパワーがつくこと間違いなし…?

…ということで、広島大学体育会オリエンテーリング部の一部でしたがわかっていただけましたでしょうか？私達はこのような状況の中、いつも活動しています。

最後になりましたが、今回のインカレにおいて多くの方にご支援ご声援をいただきました。本当にありがとうございます。来年のインカレでさらに飛躍できるようにがんばりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。また、いろいろな大会に参加させていただきますので、その時はお気軽に声をかけてください。

余談ですが、平成6年1月9日に広島大学大会を開きます。前日には山口大学大会も行われますので、多くのおみなさんの参加をお待ちしています。



個人戦7位に入った吉村年史選手はまだ2年生



# 日本学連より

## 1. 平成5年度役員決定お知らせ

先日の日本学連の総会において、3部局長並びに各地区の代表幹事が選出され、今年度のツ学生役員が出そろいましたので、昨秋決定した三役とともに報告いたします。

幹事長：佐々木 順（東京大学4年）  
副幹事長：浅井 彰規（京都大学4年）  
会計：矢萩 靖（慶應義塾大学3年）  
事務局長：脇田 啓二（東京大学3年）  
事業部長：平岩 伸康（早稲田大学4年）  
広報部長：菊池 弘昭（東北大学3年）  
【地区代表幹事】

北東学連：窪田 克彦（北海道大学3年）  
北信越学連：東川 敦志（金沢大学3年）  
関東学連：室伏 佳子（筑波大学3年）  
東海学連：多久和克哉（静岡大学4年）  
関西学連：十川 亮（京都大学3年）  
中九四学連：小倉 正幸（広島大学3年）

## 2. 日本学連の構造改革案について

先日の総会において、日本学連の構造改革案が賛成多数で承認されました。これは、年度ごとの改選される学生ではなく、過去からの流れを知っているOBを中心として、解決に通常数年を要する継続的な諸問題を話し合うことを目的としており、具体的には従来の「評議員」が、金銭的に援助をする「賛助会員」と実際の仕事で貢献する新「評議員」に分かれ、それらの上に長期的な問題を話し合うための「理事会」がおかれる構造となります。詳細は日本学連の広報誌である「いぶき」をご覧ください。

## 3. 賛助会員登録のお願い

前項の改正により、従来の「評議員」は今年度より「賛助会員」と呼ばれるようになりましたが、今年度も日本学連賛助会員の登録をお願いしております。賛助会員は主に大学学部を卒業された方で、日本学連の目的に賛同して下さる方に、賛助金（寄付金）を納付していただき、日本学連を財政的に援助していただく制度です。賛助会員になられると、日本学連広報誌の「いぶき」が1年間送付されるなどの特典が受けられます。なお、インカレのチームオフィシャルになるには、日本学連の構成員（加盟員または賛助会員）であることが必要となりますのでご注意ください。

平成5年度日本学生 インターカレッジ連盟  
幹事長 佐々木 順

## ◆平成5年度賛助会員登録のお願い◆

### 【制度の主旨】

賛助会員とは、主に大学学部を卒業した方で、日本学連の目的（学生界におけるオリエンテーリングの普及発展に寄与すること）に賛同いただける方を募集する制度です。これは、任意団体は寄付金を受け取ることができないため、会員という形で内部に取り込むことで、寄付金に相当する「賛助金」を集めるのが本来の主旨であり、賛助金（寄付金）を納付されることでどなたでも賛助会員となることができます。

### 【現在の学連の会計状態】

さて、ここで、現在の日本学連がどのような事業を行っており、そこで賛助金がどのくらいのウェイトを占めているかをご説明いたします。

### 〈収入〉

現在現役学生から集められている加盟金は1人¥1,000で、現在日本学連には2,600人の加盟員がおりますので、これらから集められる加盟金は約¥2,800,000となっております。その他、毎年のインカレには事業収入¥1,000,000が計上されています。この他に、各インカレ実行委員会に準備費用として貸し付けたものの返済金¥3,300,000及び、日本学連の方が一のための基本金¥3,000,000などを合計すると、現在の日本学連の会計規模は¥16,000,000ですが、実際には「基本金」や「返済金」、「繰越金」は連盟運営のための資産であり財源とはなりえないお金ですから、実際の支出は「学生からの加盟金」と「インカレ事業収入」で賄うことになります。これだけでは日本学連を運営するには厳しいので（後述）、この他にOBの皆様からの「賛助金」をお願いしています。

### 〈支出〉

では、現在の日本学連の事業と、それに対する予算などについてご説明します。現在の支出で最も大きいものは、地図作成などのインカレの準備に必要な「貸付金」です。これは、前年度の返済金が¥3,300,000ほどありますから、これをそのまま貸付金に充当すれば、新たな支出は本来は不要なはずですが、しかし、インカレ実行委員会になった方なら誰でも経験することですが、これだけ貸し付けても実行委員の人の金銭負担をすべて

肩代わりするにはとても足りていません。そのため実行委員のOBは毎年、学生からの参加費用が支払われるまで、多額の立替を行っているのです。日本学連ではここ数年、これら一時的な金銭負担をなるべく抑えようと、貸付金を毎年増加させています。しかしそれでもなお、実行委員の金銭負担金全てを肩代わりするには足りていないのです。また、昨年度より、ユニバーシアード派遣のための費用のうち、選手の参加費やコーチの渡航費として¥1,000,000を補助しています。とりえずサポートスタッフの費用だけでも全額が日本学連で負担できるようになりましたが、選手の費用の補助まではとても足りないのが現状です。事務局の維持費もかなり多額です。事務局が山川宅（R.M.O-サービス代表）から分離されて6年、これ以降事務局は連盟としての体裁を整え、連盟の活動のためにフル稼働していますが、この家賃だけで年間¥1,300,000もかかっています。この他に「いぶき」の発行費用や事務関連の消耗分などもかかりますので、現状でも収入¥16,000,000に対する支出は手いっぱい、とても新規事業をやるには苦しい状態といえます。

ところで、予算段階で、「賛助金収入」¥1,200,000が計上されています。これに基づいて支出は行われますから、予定通り¥1,200,000の賛助金が集まらなかった場合、現在の事業すら圧迫されることとなります。

### 〈賛助金「¥3,000から」の根拠〉

ちなみに、賛助金を¥3,000以上としているのは、「いぶき」発送や「学連名簿」の費用が年間¥1,300程度かかるためです。ですから、実際に学連の寄付金として使われるのはその差額分ということになります。できれば、4口以上の賛助をお願いできればと思います。

### 【制度の特典】

賛助会員に登録していただきますと、日本学連構成員として、「いぶき」購読（希望者）や「学連名簿」送付、学連行事参加料割引などの特典が受けられます。また、インカレでチームオフィシャルをする資格として「構成員であること」を求めていますので、学生であるか「賛助会員登録をしていること」が必要となります。

□

※【賛助会員登録方法】および【登録用紙】は、本誌付録のカレンダー裏に掲載いたしました。

# WOC93 予備セレクション最終結果

全日本大会をもってWOC93の予備セレクションレースは終了いたしました。その結果、男子は20位の河合芳尚まで、女子は15位の酒井佳子までが、本セレクションレース出場権を得ました(出場権については、本誌 92/11、16ページ=通巻1938ページ参照)。本セレクションレースは、5月23日に岐阜インカ

レ個人戦テライン(恵那市)、7月4日に滋賀インカレ個人戦テライン(土山町)において開催される予定です。

なお、ナショナルチームコーチによる推薦については現在検討中です。

SQUAD事務局長 稲葉 英雄

【男子】	合	埼	東	千	朝	筑	早	全		合	埼	東	千	朝	筑	早	全
	計	玉	日	葉	日	波	大	日		計	玉	日	葉	日	波	大	日
1. 鹿島田浩二	60	(20)	(18)	20		20	20	(19)		29. 森内 知男	19				19		
1. 村越 真	60		20		20		(19)	20		29. 稲津 隆敏	19	4			3		12
3. 国沢 五月	52	16	( 5)	19		17	(15)	(13)		31. 竹内 藤雄	17	10				7	
4. 羽鳥 和重	50		( 8)		15	19	16	(11)		32. 村井 信哉	14			14			
5. 樋口 一志	48	19	19		10			( 9)		32. 中島 陽一	14	14					
5. 稲葉 英雄	48		13				18	17		32. 佐藤 隆徳	14				9	5	
7. 吉田 勉	47		15			18	( 9)	14		35. 澤田 晴雄	13		1				12
8. 広江 淳良	46		17	( 8)	14	15		( 7)		36. 福留 潔	12			3		9	
8. 加賀屋博文	46				( 5)	16	14	16		37. 小林 哲	10			10			
10. 鈴木 康史	45	17		16	12			( 8)		38. 松葉 敏則	9	9					
10. 中村弘太郎	44				16		13	15		39. 松下 愛則	8						8
11. 鈴木 卓弥	44	15		12			17	( 3)		40. 上坂 寛之	7						7
13. 田代 雅之	42	18			18	6	( 3)			40. 香取 伸嘉	7			7			
14. 瀧川 英雄	40	11	(10)	18	11		(10)	( 5)		42. 砂川 貴幸	6			6			
15. 井上健太郎	31	7			13	11		( 1)		42. 木本 浩慈	6						6
15. 鈴木 雄輔	31		16		1	14				44. 小山 博史	5	3		2			
17. 富田 吉郎	30	13			17					44. 武田 光	5			5			
18. 利光 良平	29		14	15						44. 宇佐美俊哉	5	2	3				
18. 粕田 金一	29	( 1)				12	6	11		47. 中村 一樹	4						4
20. 河合 芳尚	28	6	9	13						47. 竹沢 聡	4			4			
=以下参考=										47. 玉木 圭介	4				4		
21. 入江 崇	27			17		10				50. 綿貫 徹	3					3	
21. 菅原 琢	27	5	4				( 2)	18		51. 藤井 範久	2		2				
23. 平井 均	26		11			4	11			51. 南條 伸穂	2					2	
23. 石井 龍男	26	8	7	11						51. 西田 伸一	2				2		
25. 山岸 倫也	25			9	8	8				51. 山本 英勝	2						2
26. 元木 悟	24	12			7		5			55. 櫻井 太郎	1		1				
27. 小河原成哲	23		12	6				5		55. 多田 正純	1					1	
28. 菊池 正昭	20		6			13	1										
【女子】	合	埼	東	千	朝	筑	早	全		合	埼	東	千	朝	筑	早	全
	計	玉	日	葉	日	波	大	日		計	玉	日	葉	日	波	大	日
1. 木植 早生	45	( 8)	( 8)	(14)	(10)	15	15	15		20. 三井 由美	11	4	2	( 1)	5	( 2)	
2. 宮本知江子	42	(12)	(12)	(13)	14	14		14		21. 志村 聡子	10		6	4			
3. 福士 淑子	41	13	( 7)	( 5)	15	13	( 9)	(13)		22. 金並 由香	9				9		
3. 宮川 祐子	41		(14)	15	12			(11)		22. 奥山 陽子	9		9				
5. 出田 裕子	40	15	15					10		24. 宇野 明子	8						8
6. 金子しのぶ	39	( 9)	13		(11)	( 6)	14	12		24. 小林 正子	8	1				5	2
7. 高野 由紀	34	11	11				12	( 9)		24. 千葉あかね	8						8
8. 渡辺 弥生	29			9	13		7			27. 金田 収子	7						7
9. 加納 尚子	27	7	( 5)	7	( 6)		13	( 6)		27. 村越 久子	7		3		4		
10. 白井 由美	26	10			( 3)	12		4		29. 阿部 真弓	6						6
11. 草野 望	25	6		8		11				30. 原 和泉	5	3		2			
11. 渡辺 初実	25		10	10		( 3)		5		31. 石川恵美子	4				4		
13. 鈴木夕紀子	23			6	7	10				32. 吉川 素子	3						3
14. 田島 利佳	22		4	11		7	( 4)	( 2)		33. 船橋亜希子	2	2					
15. 酒井 佳子	21			12		9				33. 深田 幸子	2				2		
=以下参考=										35. 岩谷ひろみ	1		1				
16. 小西 陽子	19	14					5			35. 三沢かおり	1				1		
16. 濱田 由紀	19			3	8	8				35. 石黒 佳子	1						1
18. 長谷川恵子	15	5					10			35. 清宮 秀子	1					1	
19. 田垣 尚美	14						11	3		35. 高木貴美江	1						1

# 黒木まどかの旅行記 (島根県篇)

この記事は、豊中オリエンテーリングクラブ会報と同時掲載されるもので、同・松井喜章氏よりご提供いただきました。筆者の黒木まどかさんは現在高校1年生の少女です。

3月20日春分の日、豊中OLCの皆様と共に「いざ島根県へ!」。あんなに長くバスに乗ったのは生まれて初めてだったと思います。

出雲大社に行って、素敵な男性(ひと)に巡り合える事をしっかりと頼んできました! 本殿にたどり着くまでが思いのほか長かったのですが、松の大本や桜が見れたので良かったです。(もうすこし、ゆっくり見たかったなあ。)というのが私の本音でした。それに、おみくじをしたかった!!

一畑電鉄をつかって、松江に戻る途中の電車の中で私の向かいの席にヨーロッパの男性が座っていました。その日はそ



R. Whitehead

の人のことを、(やっぱり、足が長いわあ。)などと思っていましたが、まさか次の日(21日)にそれもオリエンテーリング大会の会場で会うなんて、思いもよりませんでした。ちなみにこの人は、R.Whiteheadさんという29歳のイギリス人です。世の中って思ったより狭いと感じたのは、まだまだ若いのでしょうか。

ラフカディオ・ハーンの家の外壁だけを見た事や、ひっそりとした松江城も良かったです。ただ、ワガママを言うと、両方とも中を見学しなかったです。椿の花がたくさん咲いていました。

その晩泊まった『まがたま会館』は、私の想像以上に大きくて、きれいで、設備も整っているのです。びっくりしました。まさか、結婚式の披露宴までできるとは、誰が想像したのでしょうか?

3月21日お天気、快晴。全国オリエンテーリング大会。今回で私は、全日本大会に2回出たことになるのですが、どうして私が出るクラスはこうも人数が少

ないのでしょうか? 前回も私を含めて3人でした。私ぐらいの年の子は、余りオリエンテーリングに関心がないのでしょうか。

私は初めて、“Bクラス”に参加しました。だから心の中で、(はたして、お日様が西に沈むまでちゃんと帰ってこれるだろうか?)とか、22日の新聞に私の捜索願いや、“遺体が発見される。”なんて記事が載ったらどうしようと思ひ悩みました。何故ならそれは、私は一度地図の外に出て迷ったという、ビギナーでさえしない失敗をしてしまったという実績があるからです。

今回の失敗は、スタート時刻に遅れそうになったことです。それでも私は、会場でスタート地点までの地図を見て確かめました。その時、(スタート地点までの距離が結構遠いなあ)と思いました。思っただけで、(少し早く出よう!)なんて考えが思いつかなかった私がバカでした。



岩井さんと一緒に少し早く出たつもりだったのですが、それでもスタート地点までの道のりは長かったのです。行けども、行けどもスタート地点は見えず…。

あと‘1km’の標識を過ぎてから、私はどうどう走りました。何とか間に合いましたが、20秒しか地図を見ませんでした。[岩井さん、本当に急いでいたので、先に行ってしまうすみませんでした。]

私のクラス、“D15-16B”のポストは8つで、距離は最終ポストからゴールまでの距離、550メートルをあわせて5450メートルでした。スタート地点でもらった地図のちょうど左半分だけを使って、ポストを探すことになりました。私は第1ポスト [212 こぶ] から、分からなくなっ





てしまいました。もう一度、もと来た道に戻ってやっと見つけました。

さて第2ポスト [208 小道 南向きの終わり]。地図では 212のポストから西の小道に降りなければならぬのに、私は北東の方に向かって崖を降りたのです。それでも降りたところにあった道を真っ直ぐ西に向かえばよかったです。その間に私は4番目のポストに行く道の途中にある畑にいたのです。急いで主要道路から小道に入り、208の第2ポストへ！ というはずだったので、気がつけば、そこに墓地が！！（ここはどこ？）

もう一度、主要道路に戻って小道にはいると、私と同じクラスの人が出てきました。その小道に入りやっと 208のポストを見つめました。

お次ぎの第3ポストは、[207 人工特徴物の南側]。道から竹やぶに入る小道がすぐに分かったのが簡単でした。道と小道の境目の土が大分めかかっていたのですが、後に起こる悲劇的災難に比べてみれば、ダイヤモンドとガラス玉程の差があると言いつてもいいでしょう。

第4ポストは、[209 ほこら 東側] でした。第2ポストを探していたときに通った畑を通り、人家と人家の間にある道を真っ直ぐ行けばありました。

畑にある道を、てくてく歩いていると御勢さんに会いました。結局、競技中に会ったのは、御勢さんだけでした。[母さんとは、ゴール手前何メートルというところで会いました。]

さあ、後半分。第5ポストは、[210 小道 西向き終わり]。北東に向かって延びた小道を進み、池があるほうへ曲がって階段を上ればすぐありました。階段を上っていると、R.Whitehead さんに抜かれてしまいました。私が彼の歩幅に勝つ方法はピッチ走法しかありませんでしたが、ずっと走っていたので階段を駆け足で上がることは不可能でした。

さて、第6ポストは [224 東の道路と道の分岐]。第5ポストのすぐ横に道があったのですが、私はほぼ北に延びている小道へ！ しかし、私の思っていた地図上の小道は、なんと伐採地との境界線だったのです！！

だが、しかし。地図をよく見てみると、そこは走行可能な白色が！（よし、女は度胸！）と腹をくくり、いざ、伐採地崖降り！！ 私が降りていくのを見

て、何人かの男の子が続いて降りようとしたのですが、次々と脱落。結局、私と私と同年齢ぐらいの男の子が残りました。脱落した子の様にわたしもこの時点で止めておけばよかったと、今思います。やめておけば、あんな事にはならなかったのに…。



この旅行記を地図を見ながら読んでいる人は察しがついていると思います。そう、私は湿地にはまってしまったのです！それも、開けた湿地に！！

崖降りを終わらせるには、地面まで少し飛び降りないといけなかったのですが、伐採した木のせいで地面が見えなかったのです。だから私は、伐採した木で降りれなくて困っている女の子のように演じて、男の子を先に行かせました。その子を見ておけば、地面がどのへんにあるのか見当が付くと思ったからです。

[その時私は、自分のことを本当に賢いと心から思ったのです。]

飛び降りた男の子の顔が見えたので、私も行けると判断して飛び降りたのです。まさか男の子が、開けた湿地にはまっていることなど考えもしないで…。

「うわっ！」

気がつけば、私は太股のあたりまで湿地につかっているではありませんか！！

自分の足元一面は泥の海。私の視界の片隅には、先に飛び降りた男の子が！次の瞬間、私は慌てて、道の方に向かって進みました。右足を湿地から引っこ抜いて、すかさず前へ踏み出す。踏み出すと、私の可愛い右足は泥の中へズブズブ。左足も同じようにして踏み出すけれど、すぐ、私の愛しい左足は泥の中へズブズブ。

何とかして道にはい上がって足元に目をやると、靴はドロドロ、真っ白だった靴下はウンコ色。ジャージはナイロンでできているため、靴よりはみだが、ジャージのズボンの内側がドロまみれ。

気にしていてもはじまらないので、走

り始めました。走る度に「グジュッ、グジュッ」（靴の中にヒルでもいたらどうしよう！）

そうでなくても、第5ポストから、第6ポストまでは距離があるのに、余計に長く感じました。すべては泥のせいで重くなった靴と、走る度に聞こえる奇怪な音のせいです。でも、走っている途中で地元の子供達が、

「頑張ってね！！」

と、応援をしてくれました。

やっとポストを見つけて、装いも新たに次のポストへ。第7ポストは [225 沢]。これもとってとても簡単でした。主要道路で、お巡りさんがずっと立っていました。暑い日だったのに、ご苦労様でした。

最終ポストは、[888 小道の分岐]。ただひたすら真っ直ぐ行くだけの道でした。

何とか優勝できました！！

実は、第3ポストのところで、同じクラスの2人を抜いていたので、私は優勝できると思っていたのです。でも、1時間以内に戻ってきたいと思っていたので、抜いてからも頑張って走りました。

全日本の会場を後にして、目指すは皆生温泉。久しぶりの銭湯だったので、嬉しかったです。米子の駅でおみやげを買ってから、バスで大阪へ帰りました。バスの中で食べた「鶏弁当」がとってもおいしかったです。タレが付いていたのでかけたのですが、かけ過ぎて少し辛くなってしまいました。



行きのバスで酔ったせいもあって、ひたすら寝るか食べるか、音楽を聞かしていたのですが、帰りはお弁当を食べるとき以外はずっと、ウォークマンで音楽を聞きながら外を見ていました。ネオンが多くなってくると何だかホッとしました。

もったのんびりしたかったのですが、とても充実した旅行でした。

皆さん、お疲れ様でした。

## 都道府県協会より

## 連絡協だより

## □お知らせ

先般、「第1回阿蘇オリエンテーリング実行委員会」なるものが主催する大会の後援に、「熊本県OL協会」の名称(案として)がありました。これは無断で使用されたものであり、当協会としては非常に迷惑しており、この実行委員会なるものへ抗議中であります。

又、今後、熊本県内でのグリーンデの無断使用は当協会の事業計画等にも支障をきたすおそれがあるので自粛願いたい。

熊本県オリエンテーリング協会

□



## 編集音部より

◆3月号で「お願い」を書かせていただきましたところ、おもしろい記事や情報をたくさんお寄せいただきました。また、新年度の購読更新も順調に進んでいます。ありがとうございます。◆その中、船橋昭一先生からは「表紙用」にと、4月4日開催の第4回社会人選手権大会時のラウノ・シロラさんの写真をお送りいた

いただきました。折角ながら、本誌の表紙レイアウトに適合しないため(タイトルが頭にかかってしまう)、このページにご紹介します。◆「阿蘇大会」の件、後援している本誌としての意見も発表すべきですが、次号にスペースがありましたら愚見を書かせていただきます。若い人々への期待を込めて。 <流人>



## ②、今回の出席者 = 15名

※印 = 連絡幹事。

- 尾川正洋 (広島082-254-9274) ※小倉正幸 (広島082-256-2452)  
 吉村年史 (広島0824-22-0705) ・岩井 馨 (九産 092-683-4031)  
 石賀 敏 (関金0854-45-3574)  
 根財間定義 (大田08548-2-1405)  
 岡山 吉岡康子 (倉敷0864-62-2378) ・頓宮秀徳 (備前0869-64-4549)  
 広島 木屋恵文 (福山0824-34-3947) ・土井孝憲 (海田082-82-1950)  
 愛媛 ※宮内 祐 (松前0899-34-8275)  
 福岡 ※吉田智昭 (北九093-962-8235) ・吉村芳孝 (北九093-882-6243)  
 〃 曾根崎淳 (福岡092-731-8759) ・原田 隆 (福岡092-552-8150)  
 註: 山口・香川・愛媛・高知・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島は、欠席。

③、"中四九"連絡会のロゴ&シンボルマーク制定 = 岩井 馨君の作品(この頁・左上の通り)。ランキング上位認定証・連絡文書等に活用予定。

④、'92年度ランキング第6位以上(次の方々)に認定証を贈る。

## &lt;女性&gt;

- 第1位: 稲村 仁美 (広島大)  
 2 石黒 佳子 (〃)  
 3 植田 佳子 (〃)  
 4 吉村 直子 (山口大)  
 5 河野 淳子 (〃)  
 〃 杉本 典子 (島根0C)  
 〃 堀口多加子 (吉備路)

## &lt;男性&gt;

- 第1位: 尾川 正洋 (広島大)  
 2 木本 浩慈 (広島C)  
 〃 吉村 年史 (広島大)  
 4 内海はやと (〃)  
 5 下江 貴博 (広島C)  
 6 太田 尊司 (〃)  
 〃 増田 尚嗣 (〃)  
 〃 縄田 功 (〃)

文責・財間 定義

O-JAPAN

発行人/田口 昭子

購読料

編集責任者/田口 肇

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

'93. 4月~'94. 3月

¥3,000

Chief Editor: Hajime Taguchi

TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500

(高校生以下)

¥1,800

Editorial Address:

(Annex) 0287-77-1977

1部あたり頒布価格

¥250

7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

郵便振替口座/横浜7-46870 (加入者名) O-JAPAN 編集部

Yokohama, 233 Japan

# WOC93 予備セレクション最終結果

全日本大会をもってWOC93の予備セレクションレースは終了いたしました。その結果、男子は20位の河合芳尚まで、女子は15位の酒井佳子までが、本セレクションレース出場権を得ました（出場権については、本誌 92/11、16ページ=通巻1938ページ参照）。

本セレクションレースは、5月23日に岐阜インカ

レ個人戦テライン（恵那市）、7月4日に滋賀インカレ個人戦テライン（土山町）において開催される予定です。

なお、ナショナルチームコーチによる推薦については現在検討中です。

SQUAD事務局長 稲葉 英雄

【男子】										【女子】									
	合	埼	東	千	朝	筑	早	全		合	埼	東	千	朝	筑	早	全		
	計	玉	日	葉	日	波	大	日		計	玉	日	葉	日	波	大	日		
1. 鹿島田浩二	60	(20)	(18)	20		20	20	(19)	29. 森内 知男	19				19					
1. 村越 真	60			20			(19)	20	29. 稲津 隆敏	19	4			3			12		
3. 国沢 五月	52	16	(5)	19		17	(15)	(13)	31. 竹内 藤雄	17	10				7				
4. 羽鳥 和重	50		(8)		15	19	16	(11)	32. 村井 信哉	14			14						
5. 樋口 一志	48	19	19		10			(9)	32. 中島 陽一	14	14								
5. 稲葉 英雄	48			13			18	17	32. 佐藤 隆徳	14				9	5				
7. 吉田 勉	47		15			18	(9)	14	35. 澤田 晴雄	13		1					12		
8. 広江 淳良	46		17	(8)	14	15		(7)	36. 福留 潔	12			3		9				
8. 加賀屋博文	46				(5)	16	14	16	37. 小林 哲	10			10						
10. 鈴木 康史	45	17		16	12			(8)	38. 松葉 敏則	9	9								
11. 中村弘太郎	44				16		13	15	39. 松下 愛則	8							8		
11. 鈴木 卓弥	44	15		12			17	(3)	40. 上坂 寛之	7							7		
13. 田代 雅之	42	18			18	6	(3)		40. 香取 伸嘉	7			7						
14. 瀧川 英雄	40	11	(10)	18	11		(10)	(5)	42. 砂川 貴幸	6				6					
15. 井上健太郎	31	7			13	11		(1)	42. 木本 浩慈	6								6	
15. 鈴木 雄輔	31		16		1	14			44. 小山 博史	5	3		2						
17. 富田 吉郎	30	13			17				44. 武田 光	5			5						
18. 利光 良平	29		14	15					44. 宇佐美俊哉	5	2	3							
18. 粕田 金一	29	(1)				12	6	11	47. 中村 一樹	4							4		
20. 河合 芳尚	28	6	9	13					47. 竹沢 聡	4				4					
=以下参考=									47. 玉木 圭介	4				4					
21. 入江 崇	27			17		10			50. 綿貫 徹	3							3		
21. 菅原 琢	27	5	4				(2)	18	51. 藤井 範久	2		2							
23. 平井 均	26		11			4	11		51. 南條 伸穂	2							2		
23. 石井 龍男	26	8	7	11					51. 西田 伸一	2				2					
25. 山岸 倫也	25			9	8	8			51. 山本 英勝	2								2	
26. 元木 悟	24	12			7		5		55. 櫻井 太郎	1			1						
27. 小河原成哲	23		12	6				5	55. 多田 正純	1								1	
28. 菊池 正昭	20		6			13	1												

# 第1回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会

山岸 倫也

第1回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会は、2月7日、東京都青梅市郊外の明星大学キャンパスを会場とし、27都道府県から187チーム600人余りの選手を集め、雑木林が多く残る武蔵野らしい『草花丘陵』において行われた。本大会には、各都道府県選出のチームが競い合う選手権クラスとして、男女の日本選手権、シニア選手権（35歳以上）、ジュニア選手権（20歳以下）の6クラスが設けられ、同時に一般参加者向けに一般クラス、5クラスが併設された。

競技は晴天ながらも強風の吹き抜ける中、午前10時より日本選手権クラスのスタートによって始まった。

男子日本選手権クラスでは、1走神奈川の羽鳥がレースを引っ張る形で始まり、東京の菅原、千葉の香取、愛知の稲葉がこれに続いた。2走では、東京の鹿島田が混戦から頭一つ抜け出したものの、2位以降のチームも3分ほどの遅れで続き、勝敗の興味は後半に持ち込まれるかに見えた。しかし、実力の安定した選手4人をそろえる東京は徐々に差を広げ、最終的には9分もの大差で優勝した。2位には終始、無難にレースを運んだ神奈川が、3位にはかつての名選手多田の快走で大飯が入った。東北大学の若手をそろえた宮城は、エース菊池の力走もわずかに及ばず、4位にとどまった。

女子日本選手権クラスは、4人リレーということもあり、男子に比べて選手の頭数がそろいにくく、出入りの激しいレース展開となった。1走では、京都の加納と新潟の千葉がリードしたものの、千

葉・東京・神奈川・兵庫・茨城は2走に力のある選手（福士・宮川・奥山・出田・木植）をそろえ、追い上げ始める。3走がスタートする段階では、千葉と茨城が少しだけ抜け出たが、こうなるとアンカーに宮本のいる千葉の思った通りのレースであった。1位は千葉、2位には神奈川との接戦を制した東京が入り、3位は神奈川であった。

他の選手権クラスに目を移そう。

男子シニアでは、東京・加藤が埼玉・田島とのゴールレーンでの接戦をものにした。3位は、愛知である。女子シニアは、2チームのみの参加という残念な状態ながらも、1分半で東京がせり勝つといううれしいレースだった。ジュニアクラスは、男子は東京・京都・宮城、女子は静岡・東京・千葉と、大学生の活躍によって上位が決まった。

さて、本大会を主催するにあたっての問題点をあげておこう。

①都道府県対抗リレーからの引き継ぎ

一昨年、石川県で行われた都道府県対抗リレー大会こそ、本大会に先立つ第0回大会とも言えるべきものであり、その大会の成果・精神を十分に受け継いだ大会開催をめざしたつもりであった。しかし、JOA主催という形で開催するためには、スポンサーや上部組織（たとえば文部省）に対する立場上、本大会を第1回とせざるを得ないこともあったようだ。一般の参加者の方々にとっては、「どうして今回が第1回なの？」という疑問が生じるのも不思議ではない。それに対しては、

（主管者である東京都OL協会ではなく）主催者であるJOAがいずれ説明してくれると信じている。

②選手の出場資格

リレーというゲームが盛り上がるのは、選手の母体となる集団や団体がはっきりしていて、選手や選手に関わる人々に明確な帰属意識がある場合だ。オリンピックや大学駅伝、身近なものではインカレが良い例である。だから、この全日本リレーが今後ますます発展・成長していくためには、選手に明確な帰属意識を持つようにして、組織（JOAや都道府県協会）を改革していかなばならないと思う。その方法としては、選手の登録制度がもっとも近道である。— 選手を都道府県ごとに登録し、さらにそれをJOAが束ねる。— こうした制度なしに、リレーのゲームは盛り上がりにくいものだ。東京OL協会では、試みとして今回は登録制をしき、本大会に出場を希望するものは、協会に選手登録することとしている。

③リレーのルール

リレーとは何か？マススタートによるチームゲームならそれはリレーなのか？個人とはどこが違うのか？こうした疑問に答えてくれるルールも基準もないに等しいのが本当のところだ。この大会を今後も続けていこうと思ったら、ルールの面をも整えていかなければならないだろう。

このように、非常に不安定かつ不明確な状態での開催だったにもかかわらず、たくさんの都道府県から、多くの選手が参加してくれたことを感謝します。リレーこそ、みんなで競い合っただけでなく、楽しみが生じるゲームです。次回大会は千葉県で開催される予定ですが、より多くの選手が集い競うことを、そしてそのためにルール・制度が整えられていくことを願っています。

## 選手権クラス成績

### ★H E 24チーム

①東京都	(菅原琢・鹿島田浩二・国澤五月・鈴木雄輔)	3.22.09
②神奈川県	(羽鳥和重・松葉敏則・田代雅之・柳澤貴)	3.31.09
③大阪府	(西田伸一・村井信哉・瀧川英雄・多田正純)	3.33.31
④宮城県	(入江崇・高島和宏・安斎秀樹・菊池正昭)	3.34.33
⑤埼玉県	(澤田晴雄・佐藤隆徳・吉田勉・小河原成哲)	3.38.48
⑥千葉県	(香取伸嘉・青木卓也・小林岳人・高橋正樹)	3.39.19

### ★D E 14チーム

①千葉県	(草野望・福土淑子・長岡理恵・宮本知江子)	3.17.18
②東京都	(濱田由紀・宮川祐子・船橋亜希子・田垣尚美)	3.24.39
③神奈川県	(渡辺初美・奥山陽子・志村聡子・金子しのぶ)	3.26.14
④兵庫県	(松本真紀・出田裕子・西田智代美・木村祐子)	3.45.51
⑤京都府	(加納尚子・吉川素子・白井由美・高木貴美江)	3.48.40
⑥茨城県	(小西陽子・木植早生・角枝実・山下和子)	3.57.22

### ★H S E 22チーム

①東京都	(児玉拓・高橋厚・加藤昭次)	2.18.35
②埼玉県	(山崎直一・荻田育徳・田島三郎)	2.18.36
③愛知県	(唐戸嶋栄・新家秀男・古沢ヒロシ)	2.21.39

### ★D S E 2チーム

①東京都	(酒井か代子・清水きく子・高野美智子)	2.29.23
②神奈川県	(若梅節子・今井栄・大場節子)	2.31.04

### ★H J E 14チーム

①東京都	(野中俊樹・中村卓史・南条伸穂)	2.00.24
②京都府	(諏訪高典・一瀬建日・十川亮)	2.04.03
③宮城県	(土井聡・柿並義宏・野田健史)	2.09.46

### ★D J E 9チーム

①静岡県	(太田麻衣・金田収子・中野宏美)	2.00.47
②東京都	(伊藤晶子・上村紀子・金並由香)	2.01.42
③千葉県	(本間厚子・上羽順子・斎藤洋子)	2.24.10

## 由宇パーマナントコース オープン記念 山口県OL大会

●1993年3月14日

●山口県玖珂郡由宇町

パーマナントコースのオープンを兼ねた山口県オリエンテーリング大会が、県東部玖珂郡由宇町を会場に開催された。従来、山口県大会は運営の都合で3月末に開催、全日本大会と重なることが多く、参加する機会が少なかったが、今年は一週間前、全日本のトレーニングを兼ねて参加することにした。

由宇町には、過去「由宇大將軍」と「由宇榎尾」のPCがあったが、痛みがひどくコースも荒れてきたため、今回この2つをまとめて再調査、新しいマップ、新コース、新しいポストでオープンしたもので、ゲレンデ内で塗色の鮮やかなポストに何度もすれ違った。

同じ日に隣の広島は福山で県大会、島根は一週間後の全日本の準備中、向かいの愛媛は今治の大会、学生はインカレと重なって、個人は少なく淋しい参加者であったが、その分地元のトリム参加者が多く、初心者説明所がにぎわった。山陽本線が岩国より海岸線沿いに南下、穏やかな瀬戸内を望める当地。駅からすぐのテラインは、海の望める丘は全て特産のミカン畑、中国山地のゆるやかな斜面であったが、PCマップのためいまいち精度に欠け、アタックポイントを誤るととんでもない所に出てしまうわけで、セッターの努力のあとが察せられた。

時節柄、枯れ木が多く、通行可能度はまずまず。大会用のマップだけでも通行可能度表示があれば、と悔やまれた。

コース途中の眺めも良く、吹き上げる風は潮の香を運び、暑くも寒くもなく、走るには気持ちの良い日和であった。ゴール付近では地元の方による「豚汁」の炊出しもあり、つきたての餅の配布もあり、ゴール後の空腹を満たしてくれました。

OLC吉備路・福田 良雄



《日寺》山口県O Aが、県内を適宜ローテートして、年度末に開催する恒例の大会。今年度は全日本の一週間前に設定。幸い、好天に恵まれました。

《戸斤》今年の会場は瀬戸内、広島に近い郡部。既設のパーマナントコースが、マップ+ポスト共に新装されたので、そのオープン記念大会。A3判、1/20,000のマップの60%あまりが山林。個人クラスは、成績でも伺えるように、コース距離・ウィングタイム共に、難度の感じられるコースプランニングであった。

《人》地元勢のトリム参加が、71組≒330人。個人クラスは、約200人。当日はあいにく同じ瀬戸内の隣県(福山市)でも県民OL大会があったので、オリエンティアは二分された格好。

運営スタッフは、地元クラブも最大限

の協力、県O A役員を含め、総勢300人。ゴールでは、紅白のお餅・おいしい豚汁なども振る舞われ、好評であった。

個人クラスのトップ2は…

一般A: 2名 8,000m

①福田 良雄(OLC 吉備路) 1<sup>h</sup>47<sup>m</sup>05<sup>s</sup>

一般B: 5名 7,000m

①土井 孝憲(海田町) 0<sup>h</sup>56<sup>m</sup>02<sup>s</sup>

②渡辺 正次(山口市) 1<sup>h</sup>30<sup>m</sup>25<sup>s</sup>

壮年A: 4名 7,000m

①出口 益男(広島OLC) 1<sup>h</sup>35<sup>m</sup>14<sup>s</sup>

②小畑 睦(下関市) 1<sup>h</sup>49<sup>m</sup>47<sup>s</sup>

壮年B: 6名 6,000m

①小川 敬三(広島OLC) 1<sup>h</sup>06<sup>m</sup>40<sup>s</sup>

②綾部 虎二(北九州市) 1<sup>h</sup>49<sup>m</sup>49<sup>s</sup>

男子C: 2名 4,000m

①江口慎一郎(防府市) 1<sup>h</sup>40<sup>m</sup>42<sup>s</sup>

②井上 健一(大竹市) 2<sup>h</sup>14<sup>m</sup>06<sup>s</sup>

島根OC・財間 定義

## 第15回 日本学生オリエンテーリング 選手権大会併設一般大会 土山 オリエンテーリング 2日間大会

●1993年3月13~14日

●滋賀県甲賀郡土山町

土山町は滋賀県の東南部に位置し、東の箱根と並ぶ難所・鈴鹿峠があるため、東海道の宿場町として発展しました。13日の個人戦会場は、中京・京阪神を結ぶ国道1号線の田村神社前から徒歩約5分の場所にありました。

参加者は全国から約1700人、更衣所の体育館は各大学のクラブ旗で華やかに彩られ騒然としていました。受付で渡された直径9センチのIDカードは、イラスト入りで大変かわいいものでした。

スタート地点までは徒歩約40分。杉木立の中の傾斜地で、雪と花粉が舞い飛ぶ中、震えながら出番を待ちました。テラインの植生は、針葉樹の植林を中心として、急な斜面で滑りやすく、大きな尾根と深い沢で、難度の高いものでした。スタート直後に地図読みのミスで通行不能の植生へ降りてしまい、逆コースをたどることになり、11ポイント中、3ポイントを取れずに帰りました。防寒対策をし

なかったこと、等高線の変化を読みなかつたのが原因と反省しています。

宿は土山町役場前で、税金逃れをしている人には気になるような「まるさ」。コンタズの出村御夫妻、日本学生オリエンテーリング連盟会長の村越御夫妻とも同宿となり、楽しい一夜を過ごしました。

2日目の団体戦会場は、イースタンリゾート滋賀で、田村神社前から64台分の無料貸切バスが運行されました。運動場には、キャンパズテントも張られ、ヤル気十分の態勢が整えられていました。

9時30分から10分間隔で学生の各クラスがスタートし、併設大会は10時10分の一斉スタートでした。ゴール手前の山道は急傾斜のため、ゴール寸前の選手達が足を滑らせて、ひっくり返ったりしていました。自分達チームカラーを見つけると、大声で応援し、ゴールする選手を全員で迎えていました。入賞チームの選手は嗣上げされ気分よさそうでした。

インカレ大会は初めての体験で、大勢のオリエンティアの中から選ばれた選手達の能力は素晴らしいものであると確信しました。エリートクラス優勝は、男子・東京大学、女子・広島大学でした。この大会を開催するため、3年も前から現地調査をした辻村進さん他実行委員会の人達、本当に御苦労さまでした。

志摩スペイン村・岡本 忠佳

## 黒木まどかの旅行記 (島根県篇)

この記事は、豊中オリエンテーリングクラブ会報と同時掲載されるもので、同・松井喜章氏よりご提供いただきました。筆者の黒木まどかさんは現在高校1年生の少女です。

3月20日春分の日、豊中OLCの皆様と共に「いざ島根県へ!」。あんなに長くバスに乗ったのは生まれて初めてだったと思います。

出雲大社に行って、素敵な男性(ひと)に巡り合える事をしっかりと頼んできました! 本殿にたどり着くまでが思いのほか長かったのですが、松の大木や桜が見れたので良かったです。(もうすこし、ゆっくり見たかったなあ。)というのが私の本音でした。それに、おみくじをしたかった!!

一畑電鉄をつかって、松江に戻る途中の電車の中で私の向かいの席にヨーロッパの男性が座っていました。その日はそ



R. Whitehead

の人のことを、(やっぱり、足が長いわあ。)など思っていました。まさか次の日(21日)にそれもオリエンテーリング大会の会場で会うなんて、思いもよりませんでした。ちなみにこの人は、R. Whiteheadさんという29歳のイギリス人です。世の中って思ったより狭いと感じたのは、まだまだ若いのでしょう。

ラフカディオ・ハーンの家の外壁だけを見た事や、ひっそりとした松江城も良かったです。ただ、ワガママを言うと、両方とも中を見学したかったです。椿の花がたくさん咲いていました。

その晩泊まった『まがたま会館』は、私の想像以上に大きくて、きれいで、設備も整っているので、びっくりしました。まさか、結婚式の披露宴までできるとは、誰が想像したのでしょうか?

3月21日お天気、快晴。全国オリエンテーリング大会。今回で私は、全日本大会に2回出たことになるのですが、どうして私が出るクラスはこうも人数が少

ないのでしょうか? 前回も私を含めて3人でした。私ぐらいの年の子は、余りオリエンテーリングに関心がないのでしよう。

私は初めて、「Bクラス」に参加しました。だから心の中で、(はたして、お日様が西に沈むまでちゃんと帰ってこれるだろうか?)とか、22日の新聞に私の捜索願いや、「遺体が発見される。」なんて記事が載ったらどうしようと思ひ悩みました。何故ならそれは、私は一度地図の外に出て迷ったという、ビギナーでさえしない失敗をしてしまったという実績があるからです。

今回の失敗は、スタート時刻に遅れそうになったことです。それでも私は、会場でスタート地点までの地図を見て確かめました。その時、(スタート地点までの距離が結構遠いなあ)と思いました。思っただけで、(少し早く出よう!)なんて考えが思いつかない私がかバカでした。



岩井さんと一緒に少し早く出たつもりだったのですが、それでもスタート地点までの道のりは長かったです。行けども、行けどもスタート地点は見えず…。

あと「1km」の標識を過ぎてから、私はとうとう走りました。何とか間に合いましたが、20秒しか地図を見れませんでした。[岩井さん、本当に急いでいたので、先に行ってしまうすみませんでした。]

私のクラス、「D15-16B」のポストは8つで、距離は最終ポストからゴールまでの距離、550メートルをあわせて5450メートルでした。スタート地点でもらった地図のちょうど左半分だけを使って、ポストを探すことになりました。私は第1ポスト[212こぶ]から、分からなくなっ



てしまいました。もう一度、もと来た道に戻ってやっと見つめました。

さて第2ポスト [208 小道 南向きの終わり]。地図では 212のポストから西の小道に降りなければならぬのに、私は北東の方に向かって崖を降りたのです。それでも降りたところにあった道を真っ直ぐ西に向かえばよかったのですが、いつの間にか私は4番目のポストに行く道の途中にある畑にいたのです。急いで主要道路から小道に入り、208の第2ポストへ！ というはずだったので、気がつけば、そこに墓地が！！（ここはどこ？）

もう一度、主要道路に戻って小道にはいると、私と同じクラスの人が出てきました。その小道に入りやっと 208のポストを見つけました。

お次ぎの第3ポストは、[207 人工特徴物の南側]。道から竹やぶに入る小道がすぐに分かったので簡単でした。道と小道の境目の土が大分ぬかるんでいましたが、後に起こる悲劇的災難に比べてみれば、ダイヤモンドとガラス玉程の差があると言い切ってもいいでしょう。

第4ポストは、[209 ほこら 東側] でした。第2ポストを探していたときに通った畑を通り、人家と人家の間にある道を真っ直ぐ行けばありました。

畑にある道を、てくてく歩いていると御勢さんに会いました。結局、競技中に会ったのは、御勢さんだけでした。[母さんとは、ゴール手前何メートルというところで会いました。]

さあ、後半分。第5ポストは、[210 小道 西向き]の終わり]。北東に向かって延びた小道を進み、池があるほうへ曲がって階段を上ればすぐありました。階段を上っていると、R.Whiteheadさんに抜かれてしまいました。私が彼の歩幅に勝つ方法はピッチ走法しかありませんでしたが、ずっと走っていたので階段を駆け足で上がることは不可能でした。

さて、第6ポストは [224 東の道路と道の分岐]。第5ポストのすぐ横に道があったのですが、私はほぼ北に延びている小道へ！ しかし、私の思っていた地図上の小道は、なんと伐採地との境界線だったのです！！

だが、しかし。地図をよく見てみると、そこは走行可能な白色が！（よし、女は度胸！）と腹をくくり、いざ、伐採地崖降り！！ 私が降りていくのを見

て、何人かの男の子が続いて降りようとしたのですが、次々と脱落。結局、私と私と同年齢ぐらいの男の子が残りました。脱落した子の様にわたしもこの時点で止めておけばよかったと、今思います。やめておけば、あんな事にはならなかったのに…。



この旅行記を地図を見ながら読んでいる人は察しがついていると思います。そう、私は湿地にはまってしまったのです！それも、開けた湿地に！！

崖降りを終わらせるには、地面まで少し飛び降りないといけなかったのですが、伐採した木のせいで地面が見えなかったのです。だから私は、伐採した木で降りれなくて困っている女の子のように演じて、男の子を先に行かせました。その子を見ておけば、地面がどのへんにあるのか見当が付くと思ったからです。

[その時私は、自分のことを本当に賢いと心から思ったのです。]

飛び降りた男の子の顔が見えたので、私も行けると判断して飛び降りたのです。まさか男の子が、開けた湿地にはまっていることなど考えもしないで…。

「うわっ！」

気がつけば、私は太股のあたりまで湿地につかっているではありませんか！！

自分の足元一面は泥の海。私の視界の片隅には、先に飛び降りた男の子が！次の瞬間、私は慌てて、道の方に向かって進みました。右足を湿地から引っっこ抜いて、すかさず前へ踏み出す。踏み出すと、私の可愛い右足は泥の中へズブズブ。左足も同じようにして踏み出すけれど、すぐ、私の愛しい左足は泥の中へズブズブ。

何とかして道にはい上がって足元に目をやると、靴はドロドロ、真っ白だった靴下はウンコ色。ジャージはナイロンでできているため、靴よりはまじだが、ジャージのズボンの内側がドロまみれ。

気にしていてもはじまらないので、走

り始めました。走る度に「グジュッ、グジュッ」（靴の中にヒルでもいたらどうしよう！）

そうでなくても、第5ポストから、第6ポストまでは距離があるのに、余計に長く感じました。すべては泥のせいで重くなった靴と、走る度に聞こえる奇怪な音のせいですが、でも、走っている途中で地元の子供達が、

「頑張てね！！」

と、応援をしてくれました。

やっとポストを見つけて、装いも新たに次のポストへ。第7ポストは [225 沢]。これもとっても簡単でした。主要道路で、お巡りさんがずっと立っていました。暑い日だったのに、ご苦労様でした。

最終ポストは、[888 小道の分岐]。ただひたすら真っ直ぐ行くだけの道でした。

何とか優勝できました！！

実は、第3ポストのところで、同じクラスの2人を抜いていたので、私は優勝できると思っていたのです。でも、1時間以内に戻ってきたいと思っていたので、抜いてからも頑張って走りました。

全日本の会場を後にして、目指すは皆生温泉。久しぶりの銭湯だったので、嬉しかったです。米子の駅でおみやげを買ってから、バスで大坂へ帰りました。バスの中で食べた「鶏弁当」がとってもおいしかったです。タレが付いていたのでかけたのですが、かけ過ぎて少し辛くなってしまいました。



行きのバスで酔ったせいもあって、ひたすら寝るか食べるか、音楽を聞かしていたのですが、帰りはお弁当を食べるとき以外はずっと、ウォークマンで音楽を聞きながら外を見ていました。ネオンが多くなってくると何だかホッとしました。

もったのんびりしたかったのですが、とても充実した旅行でした。

皆さん、お疲れ様でした。

## 都道府県協会より

## 連絡協だより

## □お知らせ

先般、「第1回阿蘇オリエンテーリング実行委員会」なるものが主催する大会の後援に、「熊本県OL協会」の名称(案として)がありました。これは無断で使用されたものであり、当協会としては非常に迷惑しており、この実行委員会なるものへ抗議中であります。

又、今後、熊本県内でのグレンデの無断使用は当協会の事業計画等にも支障をきたすおそれがあるので自粛願いたい。

熊本県オリエンテーリング協会

□



## 編集部より

◆3月号で「お願い」を書かせていただきましたところ、おもしろい記事や情報をたくさんお寄せいただきました。また、新年度の購読更新も順調に進んでいます。ありがとうございます。◆その中、船橋昭一先生からは「表紙用」にと、4月4日開催の第4回社会人選手権大会時のラウノ・シロラさんの写真をお送りいた

いただきました。折角ながら、本誌の表紙レイアウトに適合しないため(タイトルが頭にかかってしまう)、このページにご紹介します。◆「阿蘇大会」の件、後援している本誌としての意見も発表すべきですが、次号にスペースがありましたら愚見を書かせていただきます。若い人々への期待を込めて。 <流人>



## ②、今回の出席者 = 15名

※印 = 連絡幹事。

- 学 尾川正洋 (広島082-254-9274) ※小倉正幸 (広島082-256-2452)  
 連 吉村年史 (広島0824-22-0705) ・岩井 馨 (九産 092-683-4031)  
 鳥 取 石賀 敏 (関金0854-45-3574)  
 島 根 ※財間定義 (大田08548-2-1405)  
 岡 山 吉岡康子 (倉敷0864-62-2378) ・頓宮秀徳 (備前0869-64-4549)  
 広 島 木屋恵文 (福山0824-34-3947) ・土井孝憲 (海田082-82-1950)  
 愛 媛 ※宮内 祐 (松前0899-34-8275)  
 福 岡 ※吉田智昭 (北九093-962-8235) ・吉村芳孝 (北九093-882-6243)  
 " 曾根崎淳 (福岡092-731-8759) ・原田 隆 (福岡092-552-8150)  
 註: 山口・香川・愛媛・高知・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島は、欠席。

③、"中四九"連絡会のロゴ&シンボルマーク制定 = 岩井 馨君の作品(この頁・左上の通り)。ラジック上位認定証・連絡文書等に活用予定。

④、'92年度ランキング第6位以上(次の方々)に認定証を贈る。

## &lt;女性&gt;

- 第1位: 稲村 仁美 (広島大)  
 2 石黒 佳子 ( " )  
 3 植田 佳子 ( " )  
 4 吉村 直子 (山口大)  
 5 河野 淳子 ( " )  
 " 杉本 典子 (島根OC)  
 " 堀口多加子 (吉備路)

## &lt;男性&gt;

- 第1位: 尾川 正洋 (広島大)  
 2 木本 浩慈 (広島C)  
 " 吉村 年史 (広島大)  
 4 内海はやと ( " )  
 5 下江 貴博 (広島C)  
 6 太田 尊司 ( " )  
 " 増田 尚嗣 ( " )  
 " 縄田 功 ( " )

文責・財間 定義

O-JAPAN

発行人/田口 昭子

編集責任者/田口 馨

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

'93. 4月~'94. 3月

¥3,000

Chief Editor: Hajime Taguchi

TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500

(高校生以下)

¥1,800

Editorial Address:

(Annex) 0287-77-1977

: 1部あたり頒布価格

¥250

: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

郵便振替口座/横浜7-46870 (加入者名) O-JAPAN 編集部

: Yokohama, 233 Japan